

羅漢竹は多く葵扇の柄とすの粽竹と稱するものは扇子玉竹は又廣東東部の産にして多くは鴉片管及ひ簫笛等の物を作る金竹は長細なる事指の如く江西撫州地方最も多し以て筆桿となすへし四川産も亦然りとす故に湖南湖北の冬笋福建浙江の笋片四川江南の細笋は何れも多産且つ名聲美なりとせり其他の毛竹護基竹は即ち籬を編むの用となすに過ぎず此外の竹は多く園圃供玩のものに止まれり竹を種ゆるには雨後に於てするを良とし特に五月十三日に種するものは尤も佳とせり蓋し竹酔の日なるか故なりと云ふ或は十二月を以て竹を種ゆるの好時節と云ひ或は種ゆるに時を論せずと云ふものあり種へし後に於ては馬糞糠粃を擁し槌を以て之を打ちて脚踐するを忌めり又竹は喜んで西南に向ふを以て種を移

すの時には東北の地に於てするを佳とせり次年に其笋を取らざるときは一歳にして老竹と大抵高低を均しくするものなりと云ふ花を生し實を結ふを竹米と稱し其竹將に枯んとするの兆なりとし即ち大竿のものを擇ひ二三尺を留めて切截し其節を通し實するに糞を以てするときには花即ち止むものとせり

梅梅に五種あり綠萼と云ひ照水と云ひ玉蝶と云ひ單瓣と云ひ紅梅と云ふ又練樹に接成せし墨梅なるものあり春季に核を糞地に埋め凡そ長すると三寸許に達すれば之に接するに桃を以てするものあり福建浙江江蘇淮南の各南省地方各々之れあり其種類一ならず湖南湖北は蠟梅尤も盛なり十二月花を開くものにして獨り廣東の一地は此の種なし水際竹林

毎に野梅を植ゆ又一種茶梅と稱するものあり花は鶯眼に似て色は粉紅に分てり黄心雅素にして久しきに耐ゆ冬月に花を開く皆供玩の珍とせり菓青にして喰ふべきものは消梅脆梅緑梅と云ふ口に入れ即ち消するものを上品となす廣東湖南福建浙江江蘇淮南河南湖北の地方に皆之れあり其實を青梅、黃梅、酸梅、烏梅等と稱す之を以て葯を作り染料とし又は生食するものあり或は梅霜、梅醬、梅酥等を製造して需用に供せり園林山園中隨處にあり而して熟食すべき者の中紅大にして支那帽子の頂子の如きものあり之を鶴頂と呼ひ味最も佳にして他種の及はざる所ろなり

桃

桃は種類一ならず大、小、圓、扁、尖等の各種に分ち四川陝西河南湖南湖北江西地方を以て多しとす江蘇淮南以南の各省に

は皆之れあり而して種を下すには春間に於て大陽に向ふの地を選び核尖を下に向け土を以て之を覆ふと尺餘にして生長すると三尺許りよ至るを待ちて乃ち移栽すべきも鹵地に宜しからすとせり木少ければ花盛んに木老ゆれば實を結ぶと多しとす人常に生食し又之を蜜漬となす仁は葯となし木は用途少なし然れども四川陝西湖南邊に於ては多く實を結はざるの各菓の雜木を伐り山坡に壘架し風雨を経て朽腐するの後木茸を生せしむ然れども摘採すると三年に至れば又生するとなし若し生するとあるも亦稍や淡黄白色を帯ひるを以て山主は之を取らず其の椿、梓、よ生するの木茸は香氣ありて味濃かなりと云ふ

李は四川の麥李を以て上品となし他所の及はざる所とす

各處も亦間々之を植ゆるものあり其樹は能く久きに耐ゆ之に接するに桃を以てするを李桃と名く色白くして味甘し種法は十二月に於て其根上發生する所の小枝を取り移して他物に種ゆるものにして最も其間は稀疎なるを宜しとし桃の如く密なるを忌めり之れ又鮮菓の一品にして其木の何用たるとは未だ聞かざる所なり

## 杏

杏は花多くして實少く陝西地方に於ては杏林あり其仁を取りて八丹杏と名け又一種黄なると橘の如くにして大なると梨の如きものあり金杏と云ふ他處の産は皆小にして若し其種法肉核共に糞土中に埋め春に至りて之を移栽す移さるるときは實愈少なきものとせり又人家に接近するを好とし且つ密布を忌み其花は桃の如くにして瓣は皆五出なり若し

## 梨

六出なるものは核必ず雙仁にして毒ありと云へり

梨は古より淮北滎南黄河濟南等の地方に多しと稱す即ち今日山東の紫蘇梨は全國第一に推す香木梨は天津永平地方最も多し沙梨は廣東の産を佳なりとし四川河南湖北も各種ありと雖味質何れも劣等なり皆二月頃に花を開き白色雪の如し種法は春分に種を下し生長すると三尺許に至りて他地に移栽し或は根上の小葉を以て之を栽し唯一二の子を結はしめ種實に供し餘は皆棠梨となすのみ棠梨とは桑を以て接せしものにして梨を結ふと早く味佳なり木質は堅にして器具を作るに用ふ雜木中の一種たり四川湖南江西湖北地方は多く小枝を取り燂き以て木炭となし一に板炭と云ひ又鷄骨炭と云ふ各堅質の木及び菓樹の枝は焙して炭となせり

揚梅 揚梅は吳中の名品なり光福山銅坑に産するものを第一と  
 なし聚塢の産は之に次けりとす洞庭の産最も多し西江烟霞  
 塢東墓嶺十八澗樂亭山のものは核小にして味甜し故に江蘇  
 浙江の産を以て上等となす種法は八月に糞池中に於て核を  
 浸し後に取り出して罨に收め二月に至り土地を鋤きて其種  
 を下し次年三月に移栽する時は長さ大約尺許に至るもの  
 とせり三四年にして他地に接し再び其枝を以て山地に栽す  
 るの時は根圍に多く宿土を留むるとに注意し而して根傍四  
 五尺の處に溝を設け擁するに糞土を以てするときは一兩毎  
 に肥料を吸収して子を結ふに當りて必ず肥大なりと云ひ或  
 は桑樹に揚梅を接するときはその子酸味なしと云ふ

林檎 林檎は俗に花紅と呼ひ江西河南湖北の一帶に産し五月中

に熟するものなり接法は梨に同じ移栽の季節は十二月頃を  
 良しとせり花色粉紅にして二月頃に開き子及樹共に奈に同  
 し奈と稱するものは李の如くにして大に外青くして内紅な  
 り即ち俗に之を品菓と呼へり樹に毛虫を生するときは蠶桑  
 を樹下に埋め或は魚の腥水を以て之に澆くときは即ち跡を  
 絶つと云ふ

葡萄 葡萄は隴西河東の諸郡に多く各處の花圃に於ても亦多く  
 之を樹ゆ哈嚙の産を以て佳とす長きものは大さ馬乳の如し  
 白にして較紫なるものは味甘し南産は皆之に次く二月に其  
 枝を取りて肥地に挿さみ架を作りて之を承け繁葉を剪りて  
 雨露を受けしむれば肥ゆるものとせり其細なると胡桃の如  
 きものは顔色の用となすと云ふ

銀杏 銀杏は俗に白菓と呼び福建廣東に多し陝西河南地方も亦少しとせす四川湖北の一帶にも亦之れあり種法は春初肥地に種へ年を過ぎて移栽するものとし葉は鴨掌の如く實は枇杷の如し花は夜間に開きて晝落つ性質冷寒を好むに因ると云へり八月に實熟すれば乃ち集て之を腐敗せしめ以て其の核を取る實は三稜なるものを雄とし兩稜なるものを雌とす必ず其二種を植ゆるときは乃ち實を結ふものとせり

橘 橘は花白くして實赤く皮香にして肉美なり福建浙江江蘇湖北等の地方總て之あり就中四川江西地方を以て尤も多く且つ佳なるものとせり其湖南より生するものは即ち洞庭の福橘なり種法は春初に種を散布し長すると三尺許に至りて移栽するを宜しとし而して猪糞を忌み冬季は河泥を擁し夏

は糞を漑くときは葉茂り實繁るとせり種類は扁橘蜜橘に區別し何れも貢品とせり襄橘と稱するものありて久しく保存すべく即ち襄陽樊城より産するもの至て少なきものとす金橘と名くるものは形ち小尖にして橄欖に類し皮香にして肉酸なり柑と云ふものは橘に似色紅赭にして早熟す金柑と名くるものは其核を去り多くは以て蜜漬となす又木奴と稱する金柑より大なる凡そ十倍のものあり柚と云ふ廣東福建の地に産し肉紅なるものを佳品とす江西四川湖南湖北の一帯にも亦多し橙は廣東の一地に之れあるのみ皆以て蜜漬となす以上は各種の皮は均しく皆葯品に用ひ此外枳實も亦葯品中の一種となす木の用途は惟柚木の一種に限り以て需用多きものとせり

棗の種類は極めて繁多なり其南棗と稱するものは長大にして浙江の金華南溪に産し蜜棗と云ふものは徽州産を以て上品となす廣東湖北産は之に次く山東河南地方も亦多し蜜雲地方より來るものを以て佳品となす河南には又黑棗紅棗雞心六月鮮等の名稱を附與するものもあるも皆品位中等のもの多し其種法は春季に於てし而して葉生すれば以て移栽すへきものとせり花繁る時に枝を以て其枝間を撃ち花をして落さしむるときは實を結ふと多く且つ大なりと云ふ木も亦雜木中の一種に算せり

## 胡桃

胡桃は又核桃と稱し山西河南直隸山東四川湖北等の各地皆之を産し且つ多し荊州襄陽の産は殼薄くして味甘く株大にして葉厚く花は栗の如くにして冬日乃ち熟するものなり

## 栗

栗は山陰産最も好し兗州宜州の産も亦佳なり此外各處間々之を産するの地方あり種法は春間に於て濕地に種へ冬月は草を以て之を裏み置くを良とせり花色は青黄にして子必ず三五を結ふ小なると桃李の如きものは乃ち一二粒に留れり霜降るの候に至りて其苞裂けて子出つ之れ其熟するの時にり大陽に曝して乾かす之を砂中に圍て來年の春夏に至る色味尙ほ新收の如しと云ふ木は雜木中の一品にて器具を製するに頗る適當なるものとせり

## 柿

柿は四川河南湖北地方に於て頗る多し葉は山茶に似て四月に實を結ひ九月に皮黄色を帯ふるの後乃ち摘採するものなり更に熟せしむるときは其色紅に變す種法は春季に核を種へ後他地に移栽するを常とし春分の後に惡しき柿を以て

之に接す其接すると三次の及ふときは實中全く核なきに至るべく接するに桃を以てするときは變じて金桃になると云ふ木は其用に適するや否や未だ之を詳かにせず

香園 香園は形橙の如くにして皮香し其大にして皮粗なるものを朱欒と云ふ葉尖長にして皮黄に枝間刺あるものは南西の各處に多し木瓜は皆以て葯となす種法及ひ接法は總て桃李に同ふして且つ秋季の候に於て移栽すれば春季に比すれば更に繁茂するものとせり

枇杷 枇杷は漳州の産を以て多しとし四川湖北等の地方に於ても亦少からす核を種ゆるときは即ち生す三月に至りて移栽し或は接枝す糞を澆くを忌み擁するに淡灰を以てするを佳とせり而して秋葉冬花春實夏熟して其子は蜜漬となし又生

食す葉は以て葯中の一品たり

櫻桃 櫻桃は各處に産せざるなし二月に之を種へ實を結ふときは網を張り之を遮り以て鳥雀驚かし更に葦箔を覆ひて風雨を避く乃ち菓木中の嬌品なり

石榴 石榴は各地に産し吳中の産は色紅にして大なり他處の産は黄白色にして小なり三種中單葉なるものは乃ち子を結ふものとする三月の初に於て枝を以て肥土の中に挿み河水を頻沃せしむるときは其根自ら生し更に根部を壓するに石を以てすれば實繁くして落ちざるものとせり

荔枝 荔枝は廣東福建地方を以て第一の産出處とし而して四川は之に次ぎ他處は絶てあるとなし冬夏の候と雖とも常に長ふして色青し殼は紫にして肉白く味甘くして汁液多し夏至

の候に至り始めて熟して赤色となり啖ふへきなり採獲するのときは一日の内にて於て盡く之を折り取るものとせり然らざるときは諸鳥の類多く之を傷殘するとあり殊に其物たる一日にして變色し易く又二日にして味を變じ三日に至るときは俱に變じて食ふへからざるに至るか故なりと云ふ

## 龍眼

龍眼 は荔枝に似て葉小に春末の候に白花を開き七月に至りては乃ち熟す壳黄にして色白く其漿の甘きと蜜の如し之れ又福建廣東地方より産するものなり其熟するの期は荔枝の後にあるを以て又之を荔枝奴と稱せり

## 橄欖

橄欖 は其樹の大なるものは數圍なるものあり實の長さ寸許秋季に於て熟し味澁し後に至れば味芳甜なり能く河豚の毒を解くと云へり福建廣東地方に産し烏欖白欖の二様に分

ち共に多額を産す湖南に於ては白なるものを白圓と稱し又多く之を出す他處は至て少しとす而して子實を採取するのときは木釘を以て之を其樹に釘し汁を其樹皮内に納れ置くときは自然に落るものとせり故に鹽醃となすとあるも蜜漬となすへからすとせり其大なる核は器物を作るものあり

## 檳榔

檳榔 は南海地方及び廣東南部の州郡に産し其實は春季に生して夏季に至り乃ち熟して鷄膽に齊し之を破れば内に錦紋あるものを以て佳品となす食物を消化し又は瘴烟の毒を消すの功ありと云ふ湖南廣東の人多く之を啖ふ葉は樹端に繁茂し房は屋下に結ひ花は房中に秀て子は房外に結ふものなり樹皮は桐に似て厚し節は大抵竹に似其内は空虚にして其外は勁なり木は器に製するを得へきも至て少れなり



括論 以上述る所は山林業の大畧なりとす抑裁成補助は聖王の準  
 とする所にして天地の化育を賛する所以たり是を以て上古  
 山林の保護甚だ厚く西州の山澤保護は尤も周到と稱す後世  
 に至るに及び其制漸く敗壞し元明以來全く廢滅するに至れ  
 り蓋し支那は家屋を造るに石材煉瓦土等を用ひ木材は其補  
 助料たるに過ぎざるを以て自然其愛養を怠り易き所以なり  
 とす其勢此の如くなるを以て昔に官有の山林之れ無きのみ  
 ならず其民有は固より毫も干涉せざるを以て内地の諸山に  
 して苟も運輸の便なる地方は皆斬伐し盡して一小林をも留  
 めざる多し爲之水源涸して近年水旱の禍實に甚し而して其  
 上文記する所の有無多少の比較の如きは準を支那地に就て  
 採るのみ若し夫れ其材木豊阜の日本人より之れを見れば多

多となすに足らず有有と稱するに足らず其眞に今尙暢茂し  
 曰ふべきものは僅に廣西雲南貴洲湖南の苗境と福建の西部  
 のみ其他省界の深山中及四川の西部に存するものありと雖  
 ども亦皆年を追ふて大に減少せり是を以て一般に木材の價  
 極めて貴く就中北方を殊に甚しとす今や其用材歳々不足を  
 告げ北方は蒙古滿州及日本より南方は日本及南洋諸島より  
 之を取り以て僅かに之を補足するものにして其輸入額の逐  
 年増加するを見る就中日本より輸入するものは尙未だ松杉  
 板及鐵道の枕木に過ぎず其棺木及家具其他造器用の木材に  
 概ね南洋嗎尼喇島より輸入する所に係る形勢彼か如く遠近  
 此の如し而して我國輸入の微々寥寥たるもの豈其法方の得  
 ざる熱心の到らざるあるに因らざる耶非耶材木商たるもの

發奮せずして可ならんや

第七章 外國貿易

沿革 支那の四隣と通商する久しと雖其歐洲との交通は始て東漢の時にあり班超使節を羅馬に遣はし以て陸路往來の端を開き羅馬の使節日南の徼外より方物を獻して海路交通の緒を發す蓋し今より一千年の前に在り然れども其後交通久しく絶へ元明以前外國の支那に通するものは西北の蠻族と印度及び南洋諸國のみ明の中葉に方り西班牙葡萄牙荷蘭等の南海に來り互市するもの漸く多し清初浙江省舟山に定海縣を設置し城外埠頭を設け互市の所と定む是より各國商船多く此に集まる然れども當時互市は尙ほ廣東の一所に過ぎざりしを以て該處の海關吏之を奇貨とし名を構へ目を設け定

税外の誅求頗る酷を極む洋商之に困み屢清廷に訴へ其矯正を乞ひしと雖ども終に効なし此時に方り西班牙葡萄牙和蘭既に衰へ英人は孟加臘(印度地度)を滅し東洋通商航海の權を專にし漸く意を支那に注ぐに至れり然れども廣東の互市尙ほ未だ盛ならず吏人の徵索益甚しく加之支那商の貿遷を以て業となす者其人尤も狡猾にして常に商英と官吏の利を奪ひ英商皆之に困しむ先是初め乾隆以前阿片煙輸入の禁甚嚴なりしか嘉慶以後其禁漸く弛み英商の廣東に來つて互市する専ら阿片煙の輸入を首とし道光に及ひ其弊益甚しく政府之を患ひ鴉片輸入嚴禁の令を布き特に林則徐を差して便宜事に從はしむ則徐乃ち廣東に抵り嚴に販烟を禁し英商か蓄ふる所の鴉片を没入して悉く之を焚棄し遂に鴉片の互市を禁す

是に於て乎鴉片の變あり朦朧濤を破つて貔貅虎の如く吼り一戰廣東を陥れ再戰香港厦門を掠し更に長江を溯て鎮江を占め破竹の勢以て江寧に逼まる清廷其防く可らざるを知り遂に償金二千一百圓を與へ及び香港を割讓し且つ通商海口五處を開て和を講せり之を道光廿二年の江寧條約と謂ふ爾來船年を経て廣東の小吏擅に在英船の清民を捕拿したるより再び釁隙を開き之に重合して天津を陥れ北京に逼る清廷亦或るを求め償金一千二百萬兩を出し且つ七所通商港を開く之を咸豐十年の天津條約と謂ふ是より各國相踵ひて來り締交通商以て今日に至る支那從來中華を以て自居る異邦を遇する同列を以てせず皆之を朝貢に列す乃波斯羅馬の如き道路遼遠なるものと雖と

も偶來て好を通し方物を贈るものあれば即之を稱して來朝と呼ひ入貢と曰ふ況んや其支那を距ると甚た遠からざるものれや清初歐人の支那に入るもの漸く盛なり是れ其人或は通商の爲に來り或は傳教の爲に來る而して支那人常に自ら尊大にして皆西人を藐視し名けて紅夷と曰ひ鬼子と呼ひ頗る禮なし西人之を憤り事を生ずる屢なり而して支那政府亦之を輕易し毎に以て意に介せず且其西洋諸國を待つ皆平等國の禮を以てせず若し使臣の節を持し幣を携へ來て好を通する者あれば朝野之を稱して亦來朝若くは入貢と云ふこと昔時と異ならず常に謂らく彼は戎狄なり中國の化を欽羨し來て款を納るものなりと豈思はざるの甚しきものにあらずや宜哉其屢辱を海外に取り幾度か笑を天下に貽し道光咸豐

の變一敗地に塗れ遂に城下の盟をなすに至るや然れども支那政府か漸く舊來の頑夢を攪破し同列の禮を以て好を外國と通したるは亦實に此敗にあり廣東の一敗五港を開き北京の再敗七港を開き疆門始めて破れて海禁遂に撤す爾來外國と同列の禮を以て好を修め商を通し公使領事を遣はし外交通商の務を理せしめ使幣往來彼我交通互市の繁き貿易の頻蓋し支那開闢以來世運變轉の一大溝を劃するものと云ふ可し現在外國と通商條約を締結するもの凡て十六國即ち下の各國

- 魯西亞國 康熙二十二年七月條約議定
- 英吉利國 道光二十七年二月條約議定
- 瑞典國 道光二十七年二月條約議定
- 那威國 道光二十七年二月條約議定

- 合衆國 咸豐八年五月條約議定
- 佛蘭西國 全上
- 獨乙國 咸豐十一年七月條約議定
- 噠嗎國 同治二年五月條約議定
- 和蘭國 同治二年八月條約議定
- 西班牙國 同治三年九月條約議定
- 比耳義國 同治四年九月條約議定
- 伊太利國 同治五年七月條約議定
- 澳太利國 同治八年七月條約議定
- 秘魯國 同治十三年五月條約議定
- 日本國 同治十年七月條約議定
- 巴西國 光緒七年八月條約議定

以上諸國に公開せる貿易港は其數二十五即ち天津港、牛莊港、芝罘港、上海港、鎮江港、九江港、漢口港、宜昌港、重慶港、寧波港、福州

約五二  
港十

港、温州港、厦門港、汕頭港、瓊州港、北海港、九龍港、廣東港、鷄籠港、淡水港、安平港、打狗港、龍州港、蒙自とす獨り日本にありては上海、鎮江、漢口、九江、寧波、天津、牛莊、芝罘、福州、厦門、汕頭、瓊州、廣東、安平、淡水の十五港の外未だ通商の權を得る能はず其海港詳細の説は已に本編第一門第三章に於て之を示せり今左に諸港一般の大勢を示し其關係利害の如何を見んとす

天津港 牛莊港 芝罘港

此三港は渤海灣の内に在りては互に鼎峙の勢を爲す輸出品は皮毛豆穀草帽縵等を主とす而して芝罘港の生糸素絹油滓草帽縵は支那輸出品の大宗に居れり北部地方は物産寡少にして豪戶富民に乏しく人民朴魯にして貿易に慣熟せず且運輸交通不便なるを以て南部の如く貿易盛大なら

すと雖ども然れども天津港は北京の咽喉芝罘港は北門の鍵管而して牛莊港は滿州の要津西北利亞の通路に中る亦豈忽諸に付すへきの地ならんや

上海港 鎮江港 蕪湖港 九江港 漢口港 宜昌港 重慶港

此七港は所謂揚子江の沿岸に在り支那國內至殷至富の區に居り物産の豊饒なる人口の滋蕃なる加ふるに水利輸運の至便を極むる支那の外國互市の全權は殆んど此七港の掌握する所となり蒸蒸日上の勢あり就中特に上海を推して泰斗と爲す抑も上海は常に支那全國百貨輻輳の區たるのみならず又東洋西洋交通の衝に當り其貿易の繁盛なる超然として東洋に冠たり之に亞くを漢口とす漢口

は支那の中心に位し全國の樞紐を握る所謂九省の會にして内貨の外に出つるもの外貨の内に入るもの皆先づ茲に輸積して上海及近傍四方に分運す故に豪戶富商之に聚居し大資本を運轉して其商權を握れり重慶は開港日淺く未だ雄を漢口に争ふ能はずと雖とも遠からずして衝を漢口と競ふに至らん其他の諸港は皆重慶漢口上海間にあり固より盛を三港に庶ふ能はざるも亦一地の要處を占領して全部活動の脈絡を保つに足る

寧波港 福州港 温州港 厦門港 汕頭港 瓊州港 北海  
港 九龍港 廣東港

此九港は古の所謂閩越の地にして支那の南部に位し昔時より海外諸國と互市を通し賈民商機に敏なる清國に冠た

り且つ物産豊阜工業熾盛なるを以て開港以來駸々として日に頻繁月に隆盛たり各港輸出品寧波は縐紗絹棉米を主とし温州は茶及竹木を最とし瓊州は茶糖果實を魁とし福州は紙茶木材を宗とし厦門は糖茶を重とし汕頭は砂糖錫器を要とし而して廣東は工藝諸品を眼目とす

淡水港 鷄籠港 打狗港 安平港

此四港は台灣島にあり島は土地肥沃礦物豊饒其貿易未だ甚だ盛ならずと雖とも將來大に望を屬すへきの地たり清政府亦茲に見るあり向きに特に上せて省となし有名なる劉銘傳氏の巡撫たるに方り鐵道を布き電線を架し開礦植茶以て大に新業振起の勢あり同氏更任後多少躊躇の情ありと雖とも達勢の風潮は不日將に其天産の徒藏を許さ

らんとす

龍州港 蒙自口

此二港は廣西、雲南の邊陲にあり専ら佛領安南と陸地貿易の地たり其利獨り佛の壟斷する所にして他の諸國の與り得る所に非ず開港未た日淺くして其大勢を論するに足らずと雖も壤を交趾に錯へて物産亦乏しとせず殊に軍事上の關係を顧れば頗る重要な利害を存す而て商事は軍事と常に消長を相須つ此地將來清佛間得喪の繫る所なり抑二十五所の互市場たる或は清初の開港に係はり或は近年の訂約に由り年月深淺隨て一ならず輸出入額亦固より均しからずと雖とも各所一括の總額より看起し來れば出入遙に我日本の比にあらざるなり今一千八百八十五年及一千八百

輸入表

八十九年の各港輸出入總額を掲げて其進歩の程度を示し及一千八百八十九年に於ける各通商の直輸出入の國別表を掲げ以て其關係の多少を知らしむ

港名	年數		増比	減較
	千八百八十五年	千八百八十九年		
牛莊	八二、九八、一五五	九、四五、〇〇四	一一、五二、八八九	
天津	二六、四二、七六三	三二、四四、五二五	五、〇〇二、七五二	
芝罘	一三、七九、五四〇	一一、六六、五七八		一一、二八、八三二
宜昌	五、三三、一七〇	四、七四、七三六		四、八四、三八四
漢口	三八、二四、七六五	三七、六、一〇、八九八		六、三、七、七六〇
九江	一〇、三三、〇六四	一一、四二、八二八		一一、〇六、一五四
蕪湖	五、二五、五三〇	七、三五、四六八		二〇、九九、一〇八
鎮江	一一、八七、四三三	一一、三三、一七八		五、二二、九四五
寧波	一一、四一、〇〇七	一一、六七、四〇〇		二、二六、三九三
海	六〇、三六、二九八	一四五、六四九、九九九		八五、三、八七、〇二二

溫州 福州 淡水 打拘 廈門 汕頭 廣東 瓊州 北海 比較

溫州	四八七,八七〇	六五九,七七六	一七一,九〇六	三〇,四九〇,〇七〇
福州	一五〇,九七五,三〇〇	一三〇,五五〇,一〇〇	七六五,七四九	三〇,四九〇,〇七〇
淡水	四,四九九,二五五	五,二六五,〇〇四	二六七,七八三	三三,三三三
打拘	二,四七八,六八一	二,七四六,四六四		
廈門	一,一九六,四三三〇	一,一九四,三〇八		
汕頭	一九二,六八一,一五六	二,一九八,六七〇三	二七,一八,五四七	
廣東	二八,八〇四,三三四	三九,五七三,一一七	一〇,七六八,八九三	
瓊州	二,七五七,〇二六	二,一九五,九四九		四六一,〇七七
北海	二,五八四,四〇三	四,九〇七,一〇六	二,〇三三,七〇三	
比較	二八〇,七三三,七八三	三三七,三〇九,五三一	一〇六,五八六,七三八	五二,九八,八〇〇



リキフ ン一イ	領魯 亞利伯西	及埃其耳士 等丁亞斯波	鮮朝南安	及州壕 ドシラジユニ	國魯 (サスデオ)	屬英 加利米亞	坡嘉新	陸大洲歐 (く除を魯)	門澳	國衆合米北	本日	度印	國英	港香	國名	港名
3,171	31,885	52,237	20,736	3,946	309,977	586,171	937,000	1,146,284	2,114,225		3,786,713	5,640,809	7,874,030	20,989,013	15,687,252	海上
															12,894,763	龍九
															10,968,445	東廣
161			140	14,162				96,428			104,622				6,766,003	頭汕
67,294			23,812	55,955				616,869		15,615	80,576				5,137,133	門厦
																3,775,336
				75,823												
															3,298,431	海北
											48,347				3,051,382	州福
	16,526	49,410	8,216			8,967	917	89,844		1,575	256,405		110,106	942,573	津天	
56											8,287			1,435,221	水淡	
	10,262		65,535				1,026	1,889		386	424,459	28,947	66,932	641,086	罌芝	
											10,073			1,131,455	狗打	
				47,860										980,691	州瓊	
	21,326		2,001								11,854			199,080	莊牛	
							12,626			1,375	8,361	3,591	1,306	101,125	波寧	
														37,895	自蒙	
														33,625	江鎮	
				10,863												州龍
											6,045			9,865	湖蕪	
														5,006	口漢	
																州温
											1,995					江九
70,632	79,999	101,647	120,440	233,014	309,977	586,171	945,967	1,874,150	2,205,958	3,775,336	3,805,664	6,601,833	7,906,563	21,167,357	63,371,081	計合

九百十ノ次上

考	備	計 合	暹 邏	拉多馬斯 哇瓜ひ及	フリキフ 島ンーイ	領 魯 亞利伯西	及埃其耳土 等丁亞斯波	鮮 朝	南 安	ひ及州壕 ドンラジュニ	國 魯 (サスデオ)	屬 加 利
<p>上表は西曆千八百八十九年の出版に係る清國稅關報告に依て編成するものとす凡そ該表中に列記する價額は清國通商各口岸の輸入金額を示す者に非ず純に諸外國より直輸入せし外國品の價額にして其通商各港より輸入せし内國品及外國品の價額該表に含有せざるものとす是を以て宜昌の如き外國輸入皆無の港ありと雖も全く外國品を銷費せざるにあらざるなり蓋し漢口天津の如きは其茶の産出地なるを以て多少直接の輸出入を爲すと雖も其他北部及中央部各港の輸出入品は一たひ上海の稅關を経て其需用地に輸出入するもの多きに居る彼の宜昌の如きは千八百八十九年中に輸入せし外國品總價は一百九十七萬八千八百七十四兩内漢口より宜昌に向て再輸出せし總價額は一百八十九萬二千六百二十一兩にして餘八萬六千二百五十三兩は他各港より輸入せしものなるを以て即ち宜昌の外國品輸入額は皆無となる所以なり其他漢口の如きは通商各港中上海に亞るか如き貿易繁昌の地にして外國品需用甚た夥しきの區なりと雖も其直接の輸入に至りては甚た微々にして多くは海上より輸入するものとす他も亦之を類推すべし千八百八十九年我か明治二十二年に於ける外國品輸入の總價額は一億一千八十八萬四千三百五十五兩關兩にして之を我か貨幣に換算すれば一海關兩は一圓五十錢余なるを以て即ち一億六千六百三十二萬六千六百三十二圓余とす之を前年に比すれば千三百九十萬兩即ち一割一步を減せり之を類別すれば鴉片類に於て一百九十萬兩乃ち六分棉布類に於て八百三十萬兩即ち一割九步毛織物類に在ては一百一十一萬兩即二割二分金屬類に在ては一十六萬兩即二分諸雜貨類に在ては二百四十三萬兩即ち七分を減せり</p> <p>上表中龍州及蒙自は共に同年の開場に係る其商勢の要は之を其事章に就て見るべし</p>	59,219,220	35,771		3,171	31,885	52,237	20,736	3,946	309,977	586,171	9	
	12,894,763											
	10,968,445											
	6,982,474	737	161	161				140	14,162			
	6,129,688	18,518	63,866	67,294				23,812	55,955			
	3,775,336											
	3,374,254									75,823		
	3,099,729											
	1,484,539					16,526	49,410	8,216				
	1,443,564			56								
	1,240,522					10,262		65,535				
	1,141,528											
	1,029,211	660								47,860		
	234,261						21,326	2,001				
	128,853	469										
	62,300											
33,625									24,405			
10,863												
9,865									10,863			
6,045												
5,006												
1,995												
113,276,026	56,155	64,027	70,682	79,999	101,647	120,440	233,014	309,977	586,171	9		

鮮	朝	加利非亞南	シブリアフ	ひ及ワヤチ ラトマス	羅	暹	領 魯 亞利比西部東	坡加新	門	澳	州	濠	本	日	ひ及國魯 亞利比西	國衆合米北	國 英	陸大洲歐 (除を國魯)	港 香	國 名 港 名
27,259 132,543			715 13,257		23,412 14,927	280,844 132,058						274 605	595,125 5,046,860	129,386	2,286,835 2,123,752	8,030,539 1,976,721	6,303,975 11,107,773	828,222 900,838 4,901 16,471,703 14,194,598	海上 東廣 龍九 口漢	
		205,797	9,856 318,574	910 56,769 274,730	2,286 47,491	15,940	13,269 80,250 428,671					11,173 1,752,717	754 6 1,898 4,908 47,824	46,118	1,812,038	1,197 250 2,452,472 164,387 2,756	119,756	400,520 130,050 171,533	州福 廈門 天津 汕頭	
				754 10,163	5 14,396 252,159	2,693	14,728 449,503									375 96,025	1,326	80,504 864,675	巴拉 狗打 罌芝 海北 州瓊 莊牛	
																				自蒙 水淡 江九 州龍
					195		2,029 65,521						626,983 45,369						108,742 240 266,537 394,400 213,466	
								1,541,151					98,007						877 72,644 82,854	
													1,296				10,850			
200,096	205,797	342,402	343,320	354,871	499,090	986,690	1,541,151	1,764,769	6,469,030	6,790,232	7,084,121	15,656,907	17,533,707	35,186,644	計	合				

九百十ノ五下

考 備	計 合	加利米亞南	南 安	領 英 加利米亞	度 印	其 耳 土	鮮 朝	加利非亞南	シ フ リ ャ フ	ひ 及 ワ ヤ チ ラ ト マ ス	羅 暹	領 魯 亞 利 比 西 部 東	坡 加 新	門	
<p>該表も同じく千八百八十九年の清國税關報告に依て編成するものにして該表中に列記する價額も輸入價額と同じく内國通商各港間に輸出せし價額を除き全く外國へ直輸出せし總價額を擧ぐるものとす而して表中細字の價額は輸出に係り太字は再輸出に係る其表中輸出價額皆無の各港は全く外國の需用に供すべき輸出品なきにあらす一旦附近の各港に輸出し以て再び輸出するものにして茲に之を列記せざるのみ輸入備考に説明せし如く彼の長江各港の如きは直接貿易を爲すもの甚た稀にして多くは上海に輸出し以て外國へ再輸出するものとす是れ上海輸出額の甚た夥しき所以なり</p> <p>千八百八十九年に於ける輸出の總額は九千六百九十四萬七千八百三十二萬海關兩にして之を我貨幣に計算すれば一億四千五百四十二萬一千七百四十八圓余とす但し海關兩の値位は輸入の部も同じ</p>	40,302,822		17 766						715 13,257		23,412 14,927	280,844 132,058			
	16,476,604				166,342	157,541 22,636	27,259 132,543								
	14,194,598														
	5,575,650														
	5,565,359	3,335			311 93,659	967 155,793									
	4,077,109			2,711 3,677		11,466					910	2,286	15,940	13,269	
	4,037,372									9,856 318,574	56,769 274,730	47,491		80,250	428,671
	1,801,806			371 18,528				6,097				5	2,698	14,728	
	1,541,151										754 10,163	14,396 252,159		449,503	
	735,725														
	412,460							8,197 24,567					2,029 65,521		
	395,558			1,158											
	232,672			18,742								195			269
	99,440														
	57,629			14,108											
84,150															
10,850															
1,708			1,708												
	95,632,663	3,335	61,786	93,970	156,760	177,808	180,177	200,096	205,797	342,402	343,320	354,871	499,090	986,690	1,541

第一表に由て之を觀れば支那各港の貿易額は開港忽ち二億  
余萬兩の上に出て爾來遂年増加して千八百八十五年に至て  
は已に二億八千萬兩に達し後僅か四年を過ぎて無慮三億八  
千余萬兩に上れり之を我か銀位に改算すれば實に五億八千  
零九十六萬四千四百八十圓の巨額となる豈に長足の進歩と  
云はざるへけんや是を以て其海關稅は支那政府の一大財源  
となり光緒十三年には已に各港の稅銀二千八百五十四萬八  
千四百二十九兩にして即ち我か四千二百八十二萬二千六百  
四十三圓五十錢たり蓋し現政府の收欸中田賦を除き稅源の  
大なる能く關稅の右に出つるなきに至れり是れ則同政府の  
外には巨額の償金を奪はれ内には長髮稔匪回教等の諸亂を  
經て國費百端なりしにも拘はらず大に海防を整は又新事業

を起すを得たる所以なり

支那の物産其種甚た多し其の重なるものを掲ぐれば茶系綿皮、毛、豆、豆糟、麝香、大黃、砂糖、蠟、漆、油、菓物等にして皆益々盛大に赴く象あり其内外に輸出して巨大の額を占むるものは即ち茶系、棉、皮毛、藥材、砂糖、豆、蠟、油の數品にして皆悉の巨利を博す然るに第二第三表に據れば輸入の額亦甚た大にして輸出に超過すると殆んど二千六百餘萬圓其得る所は遂に其失ふ所を償とを得ず蓋し輸入の重なる物品は鴉片烟、金巾、石炭、石油、摺附木、硝子、毛織物、銅、海產物等にして内洋布即ち金巾は支那産の木綿に比し價賤くして品醜からざるの故を以て年一年に其需用を増加し今や毎年の輸入四千三百餘萬兩即ち我六千五百餘萬圓の多きに達せり又鴉片烟に至ては貧富の別なく

大半之を嗜まざるものなく而して其嗜者にありては已に日常の必要物にして行住坐臥瞬時も其味を離るゝと能はず是を以て近來内地に於て大に其製産を増加するにも拘らず其輸入額は尙ほ毎歲三千四百三十餘萬兩即ち我四千八百四十餘萬圓の多きを見る識者曰く茶に得る所を適さに以て之を亞片に失すと洋布已に彼か如く亞片亦斯の如し之を右に得て之を左に散す是れ支那貿易の利廣しと雖ども輸出常に輸入に勝る能はざる所以なり

夫れ棉は金巾の原料にして支那の地多く之を産し外國に輸出する不尠清國政府已に茲に見るあり向きに一大金巾製造所を上海に起し輸入を止めんとを務め又其勸誘を以て民業紡績所を同地に起し未だ甚た盛大に至らずと雖ども日に駿

々の勢あり殊に卓識精悍なる張之洞氏は織布局を武昌城内に設け紡棉織布亦是れ輸入金巾防遏の目的に在り將に明年五月を期して其開業の典を擧げんとす一は政府の保護を擔ふて一は官府の事業たり獎勵怠らすんは蓋し漸く其目的を果すならん抑も支那人は古きを慕ふて新事業を輕信せざるの特性を有するのみならず政府亦頗る深謀遠慮輕しく新事業に接せず彼の電線の採用の如き海防軍艦の費歟の如き礦山の掘鑿の如き製鐵所の創立の如き商招局の開置の如き乃至布局の建設鐵道の布設の如き廟論自重首尾の大体宜きを得たるを見る所謂戰勝而天下謂善非善之善哲理を政治に應用したる彼等種族特性の妙處たり又一般人民をして自國を尊て外物を賤むの政畧を施し諸制度より以て衣冠の屬に至

る迄一も變更する所なし試みに其一例を擧げんに當上海を經過せしものは必ず知らん本地税關は東洋第一の大港にして毎年輸出入貨物を扱ふと實に二億二千余萬圓の衝所なるにも拘はらず今尙ほ我國舊時の陣屋の如き陋屋に在り金碧日に映し層樓空に聳ゆる四周外人家屋の中間に居り毅然泰然見て以て意に介せず却て中心之を外觀の奴隸と嘲るの概あり是を以て上の好む所下之より甚しく天下靡然として自尊自愛自信の風尙に涵養す見よ今日支那人の歐米品を需用する曰く洋布曰く石礮曰く摺附木曰く石油曰く玻璃之を前表に考るも無用玩弄のもの果して幾かある願れば戰國以來治亂興敗其幾百なるを知らず胡人君臨の大變に遇ふと茲に再ひなりと雖ども遂に祖宗の風尙を保守し其來者をして却

つて我風尚に習はしめ能く五千年の古國を今日に維持するもの豈に國粹保存先聖の遺寶にして該國政事家相傳の機畧乎彼の清氏の支那を統ふる神髓に曰く男降而女不降生降而死不降と以て其國民の風尚等察すべく以て其政畧の偶然ならざるを見るへし其國粹保存の氣象は愛すべく其歴史を重するの施政は鑒みるに足る然るに外國の淺見者は妄りに之を嘲て頑固と謂ひ偏信と稱す世已に澆漓其弊害も亦自ら多しと雖とも之を以て之を許す蓋し亦過てり矣顧て我國今日の情態を見れば輕詭浮薄風俗を顧みず歴史を慮らず世勢を知らず統計を明めず滔々乎として唯新是れ競ひ嘗て國家前途の如何を顧みず禮義沈淪廉耻地を拂ひ需供權衡を失ふて金融日に迫り空論囂々徒らに山河を泣かしむ却て支那人の

自重に愧つるなからん乎支那人緩急抑揚深味豈に嘲笑に附し去つて可ならんや

夫れ貿易に於て緩急宜を得たる彼の如く新事物に自重の序を得たる亦斯の如し而して其輸入の額を問へは曰く一億一千餘萬兩宜しく輸出の輸入に超過して國家經濟豊かなるへきなり然るに其實之に反し却つて輸入の超過するものあるは何ろや蓋し亞片の毒之をして然らしむるなり抑も亞片の支那に入るや嘉慶の末年にあり其星霜尚ほ未だ甚た久しとなさす然るに今や上は王公大人より下は車丁樵夫に至る迄都鄙の別なく貧富の分なく大半擧て之を嗜まざるものなきに至れり蓋し支那人の性情たる自信自重龐然不羈にして輕しく新事業に接せずと雖とも其一旦意に合し情に投するの



事あるや其自信自重靡然不羈適々發揮盪騰して沛然蕩然勢に乘し死も亦顧みざるものあり彼の萬里の長城の如き二千七百余里の運河の如き又一戰七十余城を失ひ一戰又之を復したるか如き是れ此種族の特性にして即ち亞片の暴蔓の如き亦此性情の然らしむる所なりとす夫れ鴉片烟の慘毒たる皆世人の知る所勤者は之を樂んて惰となり強者は之に耽つて弱となる髓を奪ひ産を盪かす世其毒に罹る者年々歳々滔々澎々たり嗚呼一時吸烟を貪て最貴の膏脂を絞り寶貨外に流れて元氣内に耗す一人の身心萎へて一郷の民力衰へ一郷の民力枯れて一國の元氣滅せんとす豈又思はざるの甚しき者にあらずや抑も支那版圖の大なる物産の豊なる他國の及ぶ所にあらず假令は其輸出する所の者をして悉く精工完作

の品となし鴉片の害をして盪然之を國外に洗滌せしめは則ち其貿易の利益大にして國勢の振ふと蓋し求めずして得るものあらん試に洋布價格を輸入總額中より減し去れば其輸入額は方に輸出に等しく更に亞片を減し去れば其輸入額は却て輸出の半に過ぎず事果して茲に至り之に加ふるに亞米利加豪斯多利亞南洋西伯利亞等に出働きするもの殆んど三百萬人此等の労働者より平均一人一年に十圓を本國郷里に送金するとするも實に三千萬圓の巨額に達すへし夫れ能く如此なるときは數十年を出てすして世界寶貨の大數を擧て之を支那の中原に吸収し得ると云ふも亦甚た過當の言にあらざるなり

顧みて我日本の現状を見るに輸出入の額一億萬を出る能は

す海關の税一千萬に滿つるを聞かす殊に其支那貿易に於ては轉た痛嘆に堪へざる者あり何そや歐米人の支那に於ける二十五所の通商港に於て交易自由ならざるなきも我日本人は僅かに十五港の外貿易するを得るの權利を有せざる是れなり抑も初め支那の歐米各國と締約するや大抵皆最惠國一體均霑の條款あり均霑とは支那政府若し開港又は其他の事物に於て新一國に利益を與へたるときは他の諸國も亦自ら同一の利益を享受するを言ふ然るに我國と支那との修好條規及通商章程には未だ此の意の條款なきか故に彼の十港の若き其近年の新開に係はるものにあつては日本人は往來貿易するを得ず徒らに涎を垂れて隣人の富を計ふるの情あり獨り之れのみならず其他凡百通商上の事に於ても亦間接

直接の便利常に歐米人の如くならず殊に彼の税關の收税等其不利なると實に言語同斷なり情勢已に斯の如し其貿易上に於ける彼我國民得失利害の判斷は固より知者を待たずして知るへし況んや我商人社會の惡習慣を以てするをや現今我物貨の支那に輸入するもの僅かに一千萬兩に上らず支那より之を觀れば猶大海の一滴九牛の一毛にして殊に其日本人の直輸に係はるものは僅に其二十分の一にも達せず而して十五港の貿易場中現に其貿易を爲しつゝ居るは實に上海天津の二港に過ぎず嗚呼日清貿易の情勢識者之を何とか云はん

夫れ支那は土地の廣き三十二萬方里人の多き四億萬若し憂國の士進て擴張を圖るに到らば假令ひ日本全國の力を傾け

沛然として之に瀉くも尙漢中の一濛霖のみ夫れ唯斯の如し然るを踏阻逡巡今に一人の奮然起つて事に茲に従ふものなきは抑も何うや蓋し日本商人の三大弊あつて存するに因る顧ふに其三弊たる曰く眼前の小得を見て永遠の大損を計らす曰く同業相嫉して團結協力せず曰く規模齷齪として自ら奮進する能はず是れなり此の三弊の如き殊に支那貿易上最も有害有毒のものたり若し此弊にして果して瀟然滌除するに至らば彼の十五港は支那貿易熾盛の地なり其十港を得ざるも亦深く落膽するに足らず税關其他の不便なるも亦豈大に失望するを要せんや今や清國金融の日に増すありて運輸の月に加はるあり速く一大雄偉の計畫を定め其方針に向て着々歩を進るなくんは國家經濟の前途其れ果して如何ん

## 第八章 結論

左の一篇は昨明治廿三年六月我研究所か東京木挽町厚生館に於て開設せる日清貿易研究會の閉會に方り本所々長か來會者に口述したる日清貿易擴張案と我研究所創立主旨との演説筆記に係る爾來烏兔匆匆節物人を待たす事に茲に従ふ已に一年有半孜々屹々日夜肺肝を春申の滬頭に碎き益々其方案主旨の甚た過たざるを認め得て百餘生徒の父兄と國家世人とに背かざる者、如し嗚呼其人は日本全國より集り其地は亞細亞の管鑰に中る仰けは皓々として明月天にあり俯せは渺々として滄溟涯りなし晝は君國を懷ひ夜は郷親を夢む天外萬里感慨無量愛國百人の神魂凝結して遂に何をか成す貧乎富乎將九強弱乎其前途の結果の如は本所か深く慎て

且任する所なり茲に暫く記して本編の結論に換ふと云爾  
 夫日清貿易事業を擴張して其商權を掌握するには其事至重  
 其法多端虚々實々未だ俄かに言ひ易からざる者ありと雖と  
 も要るに彼を知り已を知り進退機を誤らざるにあり之を簡  
 單に軍事に譬ふれば取も直さず我軍の實力を増加して彼軍  
 の實力に超へしめ以て勝を我五港及清國の中原に取んとす  
 る事故之を爲すには先づ能く今日彼我の實力狀勢如何を審  
 かにし其今日ある所以を研究し然る後ち其實力を養成して  
 勝を取るべき方法を定め進退聚散機に投して之を決行する  
 にあるのみ請ふ逐次之を述べん

熟ら我國今日實力の現況を觀察するに實業社會の有様は實  
 に悲惨言ふに忍ひざるの情勢あり蓋し今日は昔日と異り戰  
 争に於て叢合力を利用せされは勝ち難きと同しく平時の戰  
 争なる貿易に於るも亦叢合力の必要なるは人の能く知る所  
 なり況して支那人の如き多資本者に對し我國人の小資本を  
 以て之に當るに於てれや然るに我國の外國貿易は誠に近來  
 の事にして前には沿革の徴して以て則とるべきなり後には  
 慣行の依て以て恃みとする者なきを以て其殖産工業を事と  
 するものは勿論老商業家と稱する者と雖とも未だ能く彼の  
 事情に通せず多くは其一を知て其二を知らず稀れに少しく  
 其事情を解するものあるも皆目前一時の私利に眩惑し其國  
 家經濟の何物たるは勿論商勢前途歸着の如何を思はず故に  
 其極商估は一も製産家に便利を與ふる事なく却つて中間奇  
 利を製産家より食らんと欲し製産家は又痛く其利を殺かる

を憤り終に氷炭相容れざるに至り果ては製産家自から我製造せる一種の貨物を持出し開港場或は海外に取引を試むるに至る然れども製産家は未だ茲に經驗なきのみならず適ま其年他の地方に同品の製産額を増加し齊しく該地に輻輳し來れば自然同業者の競争を生じ一時相場の亂下落を來すと不尠然るに身は製造者にして貿易商にあらず其携ふる所は素と單に一種の同貨物なるか故に其損失を補ふに他品の以て利すへきなく遂に一敗地に塗るを致す從來各地の工業殖産家か一朝の挫折に俄然困頓して復た蘇息する能はざる所以のもの概ね此類に外ならずとす是れ畢竟未だ真正の貿易商なく隨て分業の道立たざるに因る其故如何となれば今茲農商工業家か團結親和の有益を思ひ又各分業經營の實利

を察し直輸出入會社を設くるとするも真正熟達の貿易家を得されは只に販路に困頓するのみならず馬嘶て牛應せず内外意氣相投せずして機を失し謀を誤り轉た怨恨を重ぬるに過きされはなり夫此の如く真正有爲の貿易者なきか故に分業立たず資本合せす團結行れず従つて物貨亦熟達せざるのみならず常に價格の一偏に競争して貨品の精疎如何を顧みるに暇あらざるか故に顧客の信用地を拂ふに至れり是れ貿易上必要なる人物資力團結物貨信用等の實力共に衰弱を極め實に悲慘の形勢に陥りたりと云ふ所以にして其情況は余か昨年六月以來周く各地方を巡回して親しく實驗するなり然らば此諸般の衰弱を救ひ内部の實力を養成せんには如何せは則ち可ならん曰く其法他なし日清貿易に熟達し自ら我

國富強の製造に任ずる有爲着實なる貿易誘導者を生じ之を  
 して需用供給の中間に缺掌し或は工業殖産家に改良製造の  
 得失利害を指示し或は安き原料を他より周旋し來つて専ら  
 販賣の一途に其智巧を應用し以て逐次各製産家に便益を興  
 ふるにあり然るときは農工業家は始て其業に安することを得  
 得て自ら各地に運送販賣するの煩勞なく偏に其製産品の改  
 良増殖に盡力し得て分業自ら立つべく又其地方の有志或は  
 實業家は其貿易誘導者を聘し或は其誘導者にして商社を起  
 し其資金を該地方工業殖産家及其他より募集するとすれ  
 は其純益は則其地方一般の純益となるを以て獨り該地方皆  
 な爲めに其利に潤ふのみならず其事業は海外貿易なるか故  
 に其發達は大に國家經濟に關係し其結果の及ぶ所皆に農商

工業家が團結親和するのみならず終に同地方擧て團結し得  
 るに至るは毫も疑を容れざる所なり於是乎始めて分業の道  
 立つべく團結の實成るべく従つて資力合し物産亦發達すへ  
 きなり

然らば則ち今日我富源大花主たる清國との貿易上に熟達せ  
 る眞正の貿易者を得るは地方何れの處を問はず尤も必要欠  
 くへからざるの事なりとす更に眼を轉して一方を顧みれば  
 抑も國を今の商業世界に立て其殖産工業を勤むるは固より  
 可なり然れども其何れの地方に賣捌き如何なる需用に供す  
 るものなるやを詳かにせず又其賣捌の道供給の法を知らさ  
 れば物貨何に由て運轉せん物貨運轉せされは是則ち自ら製  
 して自ら用ゆるに異ならず何を以てか能く其富を致さんや

吾國物産の店晒しとなり在るや久し其原因を尋ねるに職とし  
て眞正貿易者の海外販路を開拓するもの無きか爲めに由  
らすんはあらず然れば益々今日の急務は海外の貿易に親切  
適當なる人物を養成するより先なるはなし之を立國の大体  
上より云ふも之を各自生活の必要上より云ふも苟も此人物  
にして尙ほ永く世に輩出するとなくんは本邦の獨立本邦人  
の生活は其如何なる慘狀に陥没し行くへきや我其底止する  
所を知らざるなり

又眼を轉して清國にある我貿易者の現況を察一察すれば其  
清國の貿易を吾國人に許すに十五港を以てするにも拘はら  
ず其商店を開きたるは僅に上海芝罘天津漢口福州等に過ぎ  
す今左に其概況を述ふへし

上海は最も近ふして且つ大なるを以て己に開店せしもの不  
尠然れども早きは數月遅きは數年破産せざる者なく其現に  
存するもの極めて寥々に屬す其重なる者は郵船會社三菱會  
社三井物産會社等にして就中郵船會社は貿易商に非らず三  
菱三井兩會社は各重に其自己の石炭を販賣するのみ之に次  
くは樂善堂廣業洋行にして樂善堂は書藥を販賣し廣業洋行  
は今殆んど殘務を取扱ふに過ぎず金子藤井小泉洋行等又其  
次にして金子藤井は西洋人向きの小間物を賣り小泉洋行は  
摺附木と雜貨を販賣す其他は寫眞屋宿屋及日本人用の下駄  
手拭齒磨等を陳列する小店に過ぎざるなり「芝罘は曾て大  
商の開店せしものなく只雜貨洋酒等を販賣する一小店と三  
井物産會社の出張員あるのみ」天津は我國漁船の直航以來

競ふて開店せしと雖とも未だ幾はくならずして續々閉店し今は僅かに三井洋行武齋號松添洋行の三店を存するのみ漢口には只一の樂善堂あるのみ「福州は概ね皆閉店し今は樂善堂の支店と寫眞屋あるのみ噫我國商業の振はさると其れ斯の如し苟も此勢に放任して其振興の策を講せずんは假令ひ我國幸に好物貨を出すあるも其物貨標は常に支那人に左右せられ其輸出權は皆支那人の掌握に歸し我國人は孰れの時か能く其製造人たり職工夫たるの位置を免かるゝとを得んや

之に反して支那人は清國各港に商權を占め居るのみならず我横濱神戸長崎函館等に蟠居し來るもの夥くして去るもの少く又多くは妻妾を我女子に取り子孫を育し以て永住の策

を堅ふし我國の言語風俗人情より物産嗜好取引習慣に熟達し又能く連絡を彼の各港に保ち運輸金融交通を便にし内外相應し緩急度を失せず漸く將に我内地の製産に立入らんとす其能く天然の關係を利用し以て人事の經營を盡すと亦密なりと云ふへし宜なる哉我輕舉の商人か毎戰每敗終に日清貿易の商權一に只彼の壟斷する所となり輸入は勿論輸出品と雖とも我商人の直輸に係はるものは實に支那人の十分一にも及はさると豈に長大息の至ならずや夫れ彼我の實力優劣の狀勢は前條臚列する所の如し請ふ今より進んで更に我國人か従前清國に於て失敗せし原因を述べん蓋し其重なるものは左の三大欠點に過ぎざるなり第一日清貿易を爲すへき資格ある商人あらざると



競ふて開店せしと雖も未だ幾はくならずして續々閉店し  
 今は僅かに三井洋行武齋號松添洋行の三店を存するのみ  
 漢口には只一の樂善堂あるのみ「福州は概ね皆閉店し今は  
 樂善堂の支店と寫眞屋あるのみ噫我國商業の振はさると其  
 れ斯の如し苟も此勢に放任して其振興の策を講せずんは假  
 令ひ我國幸に好物貨を出すあるも其物貨標は常に支那人に  
 左右せられ其輸出權は皆支那人の掌握に歸し我國人は孰れ  
 の時か能く其製造人たり職工夫たるの位置を免かるゝとを  
 得んや

之に反して支那人は清國各港に商權を占め居るのみならず  
 我横濱神戸長崎函館等に蟠居し來るもの夥くして去るもの  
 尠く又多くは妻妾を我女子に取り子孫を育し以て永住の策

を堅ふし我國の言語風俗人情より物産嗜好取引習慣に熟達  
 し又能く連絡を彼の各港に保ち運輸金融交通を便にし内外  
 相應し緩急度を失せず漸く將に我内地の製産に立入らんと  
 す其能く天然の關係を利用し以て人事の經營を盡すと亦密  
 なりと云ふへし宜なる哉我輕舉の商人か毎戰毎敗終に日清  
 貿易の商權一に只彼の壟斷する所となり輸入は勿論輸出品  
 と雖も我商人の直輸に係はるものは實に支那人の十分一  
 にも及はさると豈に長大息の至ならずや  
 夫れ彼我の實力優劣の狀勢は前條臚列する所の如し請ふ今  
 より進んで更に我國人か従前清國に於て失敗せし原因を述  
 へん蓋し其重なるものは左の三大欠點に過ぎざるなり  
 第一日清貿易を爲すへき資格ある商人あらざると

清國は今尚ほ大小の金銀塊を切斷して之を使用し其塊質の良否に依り各其價格を異にするを以て其鑑定甚容易ならざるのみならず勘定亦非常に錯雜せり且つ其度量衡の種類尤も多く之か使用法も亦極めて複雑なりとす然るに今日迄開店貿易せし我商估は言語熟せず風俗明かならず萬事不案内のみにて只一時の話を聞くか或は一二回の旅行見聞等にて卒爾に貿易を營みしものにして云は、目も見へず耳も聽へず口も言はれぬ不具者と一般なれば自ら貿易する能はずして勢遂に支那人を雇用するに至る而して其支那人を雇ふて番頭手代となし之を使用するも元來自ら萬事に不案内なるか故に偶々番頭手代より利を勸むるとあるも或は疑ふて之を用ひず偽を聽て却つて之を信

する等の事多く往々濫賞濫罰に流る是に於て彼等以爲く斯の如き主人に正實を盡さんよりは寧之を籠絡利用して自己の利益を計るに如かずと終に賣買上右の如き不都合を生ずるのみならず又物貨仕入上に於ても捐毛を招くと不尠如何となれば清國內地商人の習慣として毎年上半期に需用する物貨は前年十二月廿日頃迄に仕入を終り其下半期の者は其年六月末迄に仕入を終る者とす然るに清國は其本部丈にても我十七倍余の面積を有する大國なるか故に毎省各風俗人情を異にせるのみならず支那人の性情は一般に古きを慕ひ新きを嫌ふの風あり是を以て假令は一の鰯一の鮑にても地方に由り其向不向又相同しからざると加之に斯る大國の事なれば従つて運輸交通の便未だ

周からす其運輸交通の便否遠近等に由り又大に之か仕入輸搬の時季を異にす假令は明年上半期需用の貨物を上海に於て仕入を終り同地を出發するに當り或は今年八月初旬に去るの地方もあれば十一月に去るもあり又地方に由ては十二月の中旬迄も買込居るもあつて各相同しからず然るに日本に在る清國人は斯る事を能く了知し居るか故に之か買出を爲すに混雜せざるのみならず之を自國に送るにも可成船便の都合を見て安き運賃の汽船に依り輸送する等能く其送致緩急の宜を過たさるも我國人は未だ之を知らざるより十月に可送を十一月に送り十二月に可送を八月に送る等衝突鹵莽の事不尠然るときは其遅れじものは來年再び同買主か來る迄空しく物貨を寢せ置かざる

へからす又十二月に向くへきものか八月に到着せば是亦十二月に到り相場の出つるを待たざるを得ず爲之金融を障け費用を重ぬ物貨亦多少の損害を受るのみならず其時季を審れせざるより送荷の緩急を制する能はずして運賃の高低を顧みるを得ず濫りに輸送する等の如き其種々不都合の結果は凡て失敗の種とはなれり是畢竟未だ日清貿易を爲すへき資格ある商人なきに歸せざるを得ず是則從來渡清日人失敗の第一原因なりとす

第二日本の荷主か一時の便宜上より物貨の權衡を失ふにも拘はらず日本にて支那人に賤賣するとは是也

假令は茲に一物貨あり神戸百斤の卸相場百圓元價九十圓とす人あり之を在上海なる日本商店に向け委託販賣をな

さんとす其之を委托するに當り荷主は思へらく直輸せば必ず巨利を得んと因て同地の卸相場に一割を加へ神戸賣元價百十圓となして之を送る而して該荷主或は同物貨を持てる他の荷主か資本薄弱なるより一時金子入用の際に當り在神戸支那人より現金を以て買求をなせば該荷主は種々談判の末金子の切迫に促され物貨の權衡を失ふを顧みるに暇なく遂に一時の便宜上より其相場に到らすして賣却するを多しとす然るときは支那人は假令は同物貨を九十二三圓にて買取り時機の緩急と運賃の高低とを計り之を上海に送り其諸懸を加入するも乃ち先きの荷主か上海日本商店に委托せし百十圓の神戸賣元價にも上らざるもの往々之れあり之を以て該日本商店は其委托品の到着

するや神戸賣元價に上海迄の諸懸を加へて賣らんと欲し行ひて之を市に問へは其相場荷主の報する所の神戸賣元價と相比適するを以て直に荷主に報して曰く今回送附の物貨は現今相場大に下落し居るか故に暫く騰貴するを待つて賣らんと以て荷主の承諾を得て只管其騰貴を待も如何せん日本に於ては其荷主の資本薄弱なると充分の荷爲替を組むへき完全なる委托販賣所なきか爲め常に在日本支那人より其薄資の弱點を突かれ賤賣の弊風始終絶ゆる時なく爲めに其物貨相當騰貴の期なく商店は只之か苦心中に空しく半年一年を経過すると不尠荷主は其賣却の遅引するを見て心竊に快からず送信して曰く物貨を送致せしより殆んど一年を経過するも未だ一文の仕切なきは抑

も亦如何の譯合なるか想ふに已に賣却せしに相違なし速に勘定すへしと於是該商店は亦大に之を憤り以爲らく今日に至る迄心を盡し心を焦かし折角之か賣銷に従事せしに如何なれば斯る無禮の事れや言ふ直に成行に任せて賣却すへしと倉庫より取出して之を見れば已に一年半と経過せし故色澤の剝くへき者は剝け香味の減すへき者は減し居等にて其到着早々なれば百斤百十圓に賣れしものも今は百圓にも賣れず假令は八九十圓にて賣却し其永き間の藏敷料手数料其他種々の費用を差引勘定すれば荷主の受取るへき所は漸く原價の半を越ゆるに至るものあり於是荷主は又大に憤懣して曰く直輸は以後決して爲すへきものに非す永く荷物を寢せ置くのみか非常の損失を招

きたりと加之ならず荷主は其怒に任せ或は商店を誹謗し社長社員を讒誣するに至り爲之遂に在上海なる該商店は日本荷主の信用を墮落すると同時に又各荷主は物品を委託せざるに至る是則從來失敗の第二原因なりとす

第三は我日本各地方に於て往々見るか如く矢張在清國の日本商人か公益を顧みず私利を營むより同じ賤賂に同物貨を以て互に競争するとは是れ從來失敗の第三原因なり以上の三大欠點は是迄支那に貿易せし我商人をして失敗を取らしめし所の原因たり然るに我國人は失敗せし原因を究めずして徒に支那を以て向ふへからすと爲すものあり或は是迄皮想上の迷斷より大に疑念躊躇するものあり其誤信の大なるものを擧ぐれば

曰支那人は團結に富めり其結合力より失敗を被る者多し

曰清人は生活の度低し日本人は之か爲に失敗す

曰清人は商法に敏捷也日本人の及ぶ所にあらずと

以上は凡て皮想の迷斷に過ぎす而して向後日清貿易の發達上頗る妨害たるか故に今左に一々例證を掲げ以て其誤妄を辨解せん

第一支那人は團結力に富めりと云ふと雖も余か清五年間未だ曾て其實を見ず余の久しく住居せし湖北省漢口の地たるや有名なる出產茶地にして年々歐人の大艦巨舶を以て來り買ふ者多し然るに支那人は一時結合力を顯はすと其特性にして虚勢を示すと屢なりと雖ども是利の爲に結合する者なるか故に一損我に起れば忽ち散し一益我に來

れは即ち合す其能く結合の一周間を支ゆるものあるを見ざる也且又支那には度々會社を組立てしも今日尙存するものは僅に招商局なる瀛船會社と其他一二の紡績織布局とあるのみ蓋し此等會社の存する所以は固より政府保護のあるあり且つ彼有名なる李鴻章氏の深く干與する所にして特に招商局の如き其局長には才名ある馬建忠氏を以てし會計其他の役員には多く西洋人を用ゆるとに因る也之に由て之を觀るも支那人の團結力の乏しき事實を見るへきなり且つや元來社會眞誠堅固の團結たる素と各自の徳義心と利害趨勢の歸着を明にするより生ずる所の結果ならん然るに徳義頽敗廉耻地を拂ふ現時の支那商人にして眞個の團結力なきこと豈に異とするに足らんや然れど

も我國に於ては支那人團結力の爲め我商人か往々失敗を招くとあり縱令は横濱に於ける我海産商か支那人の使用せる權衡の不平を憤り或は見本の貪求を怒て一時斷然其取引を停止するも素と我商估中一も自ら直輸出するの技倆あるものなく又我在清商估の開きし完全なる委託販賣所あらざるを以て遂に復其支那人に販路を許さざるを得ず而して支那人は素より之を熟知するか故に藐視以て毫も痛癢を其間に感せず我商估は其資力薄弱にして其久しきに瀰るも遂に其勝算なきを知り已を得ず刀を奉じて其商門に降るを免れず是畢竟我商估か最初より負くへき原因を以て負けたるものにして之を見て以て支那人團結力の如何を例證するは蓋し其當を得ざるものと云ふへし諸

君の知らるゝ如く昨年北海道に昆布會社起り直輸出一手販賣を企てたり然るに在函館横濱等の海産清商は勿論上海等の海産商に取つては實に一大事變たるを以て清商は最初例の如く大に虚勢を張つて團結力を示せしも其後相持すると僅に三週間同會社利を以て其清商中の二三名に啗はせしに團結忽ち瓦解し該年昆布の價格平年に比して大に好景氣を顯はせしか如し夫れ其情勢斯の如くなるか故に他日日清間各港に於て我完全なる委託販賣所あり又日清貿易上適當の貿易者輩出するに至ては我國内に於ても再び支那人の團結力を見ざるに至るや予の信して疑はざる所なり

第二清人生活の度低しと云ふと雖とも是亦皮想の判斷たる

を免れざるなり何となれば清人衣食住共其我に優るあるも決して劣るとなきのみならず清人は始終茶を飲み菓子を食べひ亞片に耽り其他紙を焼くとか爆竹を放つ等平常の徒費己に甚しく殊に冠婚葬祭其他式日等に金錢を浪費すると實に夥し且一夫數妾其多少に依て其人財産の多少を知ると云ふか如き風俗あり一人にて五名乃至十餘名の多きを蓄へ綺羅錦綉以て豪華に誇る其多費實に知るべきなり右の如く清人生活の度は甚た高きものなるも時々外觀の其實を見違ふとあり今其一例を掲げんに嘗て予の久しく住居せし漢口に外國人鬚剃の賤業を爲す姓張と云ふものあり敝房膝を容れ襪履身を纏ふ試みに其財産を問へば多く四萬兩を蓄へ居ると又豆腐屋か豆の安き時分に買置

き一買一賣遂に五萬十萬の財産に至るものあり斯の如く彼れ支那人は利の存する所業の貴賤を問はず四萬兩十萬兩と蓄財を爲して尙鬚剃豆腐屋に安するか如きは蓋し我日本人の夢想たも見る能はざる所なり且又支那人は相應の家屋に住居するも諸事意を清潔に用ひさるか故に其居留地に住居するものや或は漫遊巡回杯に來りし者か立派なる西洋造の家屋に住し俄かに支那人居住の状を見れば非常に不潔の如き感あるへく且つ食物の如きも頗る不潔なる器物を以て食し居る故一見甚た生活の低さを覺ゆるものあり然れども獨り支那人の住居のみならず我邦人にあつても支那の居留地に住すると三四年去つて日本長崎に歸れば其家屋は皆小箱か陳列し在るか如くに感ずると



一般なり然し概して之を云へは農工業家は先づ質素の風なれども貿易商は頗る奢侈の風あり餘り餘力もなき者にして尙ほ妾を蓄へ籠に乗るか如き其失費の多き遙に日本人の上に出つるを見る是に因て觀れば支那人一般生活の度は決して低きものにあらざるを知るへし

第三清人商法の敏捷日人の及ぶ所に非らずと云ふものあれども是亦誤見たるを免れす其多數人士中には固より多少敏捷の者あるは獨り清人に限るにあらず而して清人は一般に之を評せば先づ不敏捷に近きものと云はざるへからす何となれば清人は第一に不信用即清人の名は直に狡黠の別名の如く思れ居るは貿易に敏捷の風と云ふを得んや且つ支那商は妙案美策以て勝利を得るに非らずして一は

狡黠の甚しきと一は苦澁辛抱とに在り假令は在函館の海産清商か其貨物を本國に送るや必ず其定期船の積荷尠き時か若くは脱走船即不定期船に於てするものにして以下述ふる微意あるを以て故らに時間を談判に費さしめ其出帆に迫つて安賃に相談を纏め夫より積荷に掛るものとす然るに元と一箱百斤入幾千箱幾百箱と約束せしに其已に運ひし荷物の内には箱の立積約束外に大なるもの尠なからざるを以て試に之を權るに一個にして二十斤乃至四五十斤の超過するものあつて概ね皆過量なれば船主怒つて再び談判を開き至當の増賃を要求するも辨論中已に積載を終るに至る而して船にあつては罐己に熱し又官書郵便物等の送り來るあり勢出帆せざるを得ず支那人已に之を

察し更に強談を起して曰く若し強て増賃を要求せば再ひ他船の便あるを待たん請ふ本貨を我倉庫に返送せよと船主憤怒するも亦如何ともする能はず罵詈以て出帆するに至る然れども全清人皆悉く然るに非らず元來在日本の清商は大抵寧波廣東の商人多し同地の商人は多年外國人と貿易を爲し屢々其姦策に陥いり因習の久しき一種異様の狡黠風を養成されし者なれども其他内部の清商は仲々緩大なるもの多く賣買談判中三國の古談を交ゆる等隨分迂遠のもの尠からず又苦澁辛抱とは俗に所謂意地きたなにて僅々の事に日々夜々來つて同事を相談する等辛抱競へを以て勝を制せんとするものにて乃ち日本人の忍耐尠きものか屢々敗を取る所のものなり故に清人鉅萬の蓄財を

なすものあるも詳かに其跡を按ずれば彼歐米人等の能く時勢を察し機變に投じ統計數理以て其利を博するもの、倫ひにあらず概ね辛抱苦澁溜々以て増殖せし者なれば日本商人か清商の敏捷難當と漫然評し去るは予は其至當の見解にあらざるを信するなり

以上説述する所に依れば從來我商人の失敗を取りしは其原因團結力の爲めにあらず生活の度の高低にあらず又清商の敏捷當り難きにあらずして實に前述の所説三大欠點に出てざるを知るへきなり已に從來失敗の原因明瞭なり請ふ是より進んで將來日清貿易事業を擴張し其商權を掌握する方法に移るへし

儲之を爲さんには必ず先つ前述の三大欠點を矯正せざるへ

からす而して之を矯正するは他なし日清貿易に適當の資格あつて着實有爲の人物を養成するにあるのみ如何となれば此人物の各地に輩出するに至れば第一欠點を補ふは勿論前に詳論せし日本内部の欠點も補ひ得るのみならず殊に日清間に確實なる貿易會社を設け充分荷爲替の便を興ふるとを得へし然るときは我國の荷主も一時金融の切迫より不得止薄利を甘んじて支那人に賤賣するの第二欠點も減すべく又斯る確實なる誘導會社出つるあつて一般に周旋の勞を取るに至れば夫の第三欠點たる同國人互の競争も亦自ら減減するを得ん然るときは内外共に補欠整頓し以て着々其方針に安進するを得へきなり

然らば則ち其人物の養成は實に國家切要の事業にして亦今日

日の急務たる知るへし今左に其養成の方法を述べん抑も茲に養成せんとする人物たる其前途責任の重且つ大なるか故に獨り學術技藝を修得するを以て足れりとせず必ずや經營の才幹に富み自立の氣力に豊かならしめ忍耐堅固最も公同協成の大局に通達せしむるを要す是を以て最も其人物の撰擇を慎まざるへからす人物已に得は則ち居以て氣を移し百聞一見の意に基き先づ上海に日清貿易研究所なる一の商業學研究所を設け之に授くるに清英語を始めとして地理簿記經濟學等日清貿易上必要な諸學課を以てし可成學理に失せざる様實際應用の鍛練を便にし正確切實の調査に就き其利害得失を講究せしめ又實踐科を設け以て逐一實物に就き度量衡金銀銅貨紙幣の鑑定使用法より各物貨の形容

品質及嗜好嫌惡風俗人情習慣の研究は勿論漸次銀行税關漁船會社郵便電信局保險會社等の取扱法を練習せしめ傍ら日清貿易物品陳列所を設け苟も日清貿易に補あるの物貨は悉皆陳列して試賣買を爲し以て生徒をして實際賣買の取引習慣を研究せしむ而して在上海學術兩科研究の時日を三年とし學年充つるに及更に半年間清國の諸要港を巡回せしめ各種の實際問題を與へ上海貿易と異同の點及他日諸種の貿易事業を經營するに必要な調査を遂げ又清國內地に入れ日本物貨の最も重なる需用地と支那物産の日本に向くべき最も重なる製産地とを巡視せしめ其需用製産の實況及其地と最寄開港場と金融運輸交通等の實況を精査せしめ以て後來日清間貿易の變化に際し臨機運籌の素源を蓄へしめ歸所後

其實地に研究調査せし事實を互に交換討究せしめ尋て實際の對策法に依て卒業試験を行ひ以て研究所の授業を結ぶものとする

夫れ生徒養成の方法順序斯の如し果して卒業の曉に至れば獨り夫の三大欠點を矯正するのみにあらず更に大に重大の結果あるを見る何ろや曰く彼の最も恐るべき清人の多資本力に對し其團結力の乏きに乘じ集力一致大舉進んで其商權を全握する是なり今左に其方法の概畧を述べん抑も前きに陳へたる陳列所にあつては生徒の研究に充つる傍ら我國各府縣製産物中其支那に向ひ何々は直に向くべく何々は如何改良せは向くべく何々は向くも利あらず何々は不向なりと又支那の何々は我國何府縣へ向く向かぬと云ふ

如く仔細に其銷情の實驗を遂げ得べきを以て其各府縣の實業者にして其向くべきものを清國に輸出入するには必ず適當の人物を要するに至るは必然の勢而して其適當の人物は蓋し研究所卒業生の外なく於是其一部は各地方に歸つて其地の實業發達に盡力するを得べく又其陳列所にあつて内外に直輸出入の經驗を積み其結果に基きて先づ其清國に向くべきものと日本に向くべき確實なるものより始め漸次擴張すべき一の誘導商會を上海に起し支店或は出張店を清國の要港及日本の五港に置き以て各府縣の誘導者及實業者と連絡すべし假令は今長崎港の支店にては九州近傍の各縣より直輸出するものを集め之に荷爲替を與へ其物貨清國の北方中央南方と各其向くべき種類を區分して其方面の同商會に

送り又清國の各店よりは九州方面に向くべきものを一纏に爲して之を長崎に送り同地の支店にて熊本福岡佐賀と云ふ如く各其向くべき地方に區分し之を其地の誘導會社に送り其誘導會社は又之を各其需用者に送致する如く脈絡貫通首尾照應するを要す事茲に至れば始めて我日本人は外人の手を離れて直輸出入するを得べく漸次以て日清の商權を回復するに至るべきなり

以上述へし所のものは是れ予か空論空想にあらず將さに今日進んで之を實行せんとするものなり余や昨年來我國の各地方を巡回し前述の主旨を以て廣く生徒を天下に募り現に同感有爲の青衿百餘名を得たり愈々來る九月を期し之を率ひて清國上海に渡り前に陳へたる方法順序を以て研究所及

陳列所を開設し漸次事業の進歩を計つて商會を起し果して生徒にして將來漏出する萬艱に耐へ能く成業するものあらは之と共に實業者諸君の周旋役に任し誓つて之を決行せんとす是れ予か今より諸君に斷言する所なり(明治廿三年七月某日日清貿易研究會長荒尾精(口演之))

第七門 雜記

第一章 會館(同郷俱樂部)

名稱及主旨

清國古來會館と稱するものあり而して又殆んど異名同体のもの數種あり公所と云ひ書院と云ひ廟と云ひ宮と云ひ殿と云ひ閣と云ひ祠と云ふか如きものは是なり會館は重に其地名を題して之を呼稱し(湖北會館蘇江會館廣東會館等の類)公所は重に其業務を以てし(茶業公所絲業公所錢業公所等の類)他の廟、宮殿、宮祠と云ふか如きは其館内祭る所の神名を題して之を呼へり其祭る所の神なるものは數種ありと雖とも世に大切ありし古聖賢を多しとす試に其一二を擧ぐれば湖北の禹王廟山陝の關帝廟福建の天后宮、徽州の文公祠、老君殿、孫祖閣、或は士君子社會の尤も專信する文昌宮、奎星閣の如きは皆

な是なり一言にして之を云へは會館と稱するものは即ち同郷國人の俱樂部にして公所は同業者組合會議所而して他は我國の神社佛閣と云か如し其主旨組織等に至つては未だ我國に見ざるもの多きを以て敢て必適の名稱と斷言する能はざるも要するに會館の主意たる第一同郷國人の親睦を計り同業者の紛紜を收め守望相助け患難相救ふの意に外ならざるか如し

起因 其會館公所等の因て起る所以と其起りたる期年を尋ぬるに早く已に唐代に起り清朝に至り尤も増加せりと云ふ素より運輸の便開け交通の道盛なるに隨ひ商賈相往來し相交易するに至れば各地自然同郷者の集合同業者の増加を免かれず之を以て之を看れば清朝に至り其の増加を見るは其理然る

へきとにして現に茶業公所絲業公所の如きは開港以來の創設に係るものなり

## 組織

今其組織の概畧を記せんに各會館公所には必ず會首と稱するものあり此會首と稱するものは乃ち會館長にして官民を論せず同郷或は同業者中より有望家高齒家或は執權家を互撰して其任に充て一年を以て交代の期となし以て万事を整理せしむ別に司事と稱するものあり館の大小に依り其數不一或は二人或は四人或は十餘に至るものあり司事は常に會首の命に隨ひ其業務を補佐し兼て會計を整理す其他は只管廚(料理番)值殿(殿番)守台(演劇台番)把門(門番)等の雇人あるのみ月給は會館の大小に依り差ありと雖とも大抵會首たる者は名譽役にして無月給司事は四圓より十五圓位迄管廚值殿守

台把門は各三圓位を常例とす或會館に依りては別に出官と稱するものあり之は常に來賓の應接に従事するものにして別に之を置かざるものは司事を以て此役を務めしむ

業務

平常取る所の業務は別に一定する者あるにあらず凡う會館なる者は何事に係はらず同郷人或は同業者組合に於て一事の議すへき事出來する時は官員は官員商賈は商賈(商賈にも各種の同業者ありと知るへし)何事を論せず時日を期して相會し或は宴會を開き或は演劇を催す等の事あれば其際會首司事等の其間に管旋するは勿論殊に毎年春秋二季の定祭は彼か一年中の二大業務と云ふへきものなり何れの會館公所書院、廟、祠、宮、殿、閣を論せず毎年必ず春秋の二大祭をなすを例とす此二大祭は常祭と大に趣を異にし前後左右の各門を

洞開し樂を奏し戲を演し貴賤男女の別なく皆な其縦覽を許せり神前には牲を獻し殿中を裝飾するには異艸奇花を以てし紅燈綠彩玩古書畫一切の如きは又新に之を配置す席には山海の珍味を列するなど其奢華殆んど驚くへき者あり配置已に調へは同郷中尤も敬尊すへき大紳官一人身に吉服を冠帶し香を點して神前に敬禮すれば衆人皆之に次て趨拜せり之を主祭と云ふ然れども時ありて館主之に代り主祭となるとあり其平常にあつては重に罰款、整規、演戲、祀神等の事に付き管旋せり而して司事は常に田地、房屋、財産、什物等を管理し各之か帳簿を製して之を收め年一度若くは交代の時に當り之か精決算を爲し明かに之を報告するの例なり總して其任務を云へば此數班に過ぎずと雖ども亦同郷人の進士翰林等



に及第せしとき或は同郷人の官員となり遠地に赴任する時等は必ず宴會を催して之を送迎し或は同郷人の落流して會館に至るものあれば之に給するに旅費を以てし或は疾病に懸り依る所なきものは醫者を僱ふて之を治療し或は貧死人の爲めに地所を購ふて義塚を作り常に棺材を儲ひて其棺に備ひ或は貧者に衣を施し或は粥を施し或は藥を施し或は茶を施し或は爲めに學校を作り或は爲めに義渡を設け會館より貧者の爲に渡を設け渡賃を取らざるものを云ふ或は爲めに救火器を備ふ等の事は皆同館の責任にして殊に同業者同郷人及び同郷者と他郷者との間に起る訴訟事件等の裁判は館首か任務中尤も重なる者どす又會館は各同業者商賈の爲めに度量權衡を制定するの權を有するのみならず商業上同業者に於て已に申合せたるとあ

權限

れは必ず同業者をして其行規を紊亂せしめざるの權を有せり萬一之か申合規則に違ふものある時は直に之に罰するに演劇幾台料理幾席銀幾何等を以てし其違範人者の姓名と其理由を記し或は館門に帖し或は戸戸之を回送せしむるを例とす若し又た違範者にして其罰に服従せず恬として不顧等の事ある時は直に會館より衙門に告訴するか或は中人を以て説諭するか或は同業者中より之を脱棄し再ひ其地にあり營業するを許さしむ

他會館との交渉

又甲帮人にして乙帮人に對し取引上殊に關係往來を要する時は甲帮會館より乙會館に向て其趣を通知し互に承諾の上は其甲者より銀若干を乙者に送り乙者の權衡度量を申受け更に演戲一台酒幾席を設けて各會首を會し之を邀應するの

例あり此等も亦任務中の一と云ふ可し

構造 于茲一會館の構造を概記せんに其大なるものは其周回は我半里余に至り其高濶宏廠幾んど宮殿に類するものあり其建設位置は必ず街の北側にして南に對せしむ蓋し南面事を裁するの意なりと云ふ前面は必ず大街に通し後面に必ず出路あり館の兩傍は餘地を設け墻を高ふして火災の憂を避く又正門の兩邊に小門あり門前に柵を束ぬるものあり其狀殆んど各衙署の儀門に同じ門を進めは門上に演劇台を設け前面に大殿あり大殿と演台の兩邊を通して耳台と稱するものあり即ち我國演劇場の棧と稱するものと相似たり耳台の兩邊又兩個の鐘鼓樓あり大殿の後に後殿あり其傍に偏殿あり其後殿偏殿に亦小演劇台あり殿には何つれも神像を案置し

又今上皇帝萬歳の牌を嚴置す又花園あり花廳あり宴遊に供するの所なり園中には必ず池水を設く一は園景を助け一は火災の用に供せり其後に當り便門あり之も亦火災用心の爲なりと云ふ而して大殿の神像には必ず神龕を以て其前を掩ふ殿内懸くる所の匾額は種々様々ありと雖とも大柱には必ず楹聯を以て其柱を包み壁には各種の書畫を懸く棹あれば必ず古器物を陳配し簷には必ず彩あり堂には必ず燈あり台上必ず涼棚(日掩)あり神前には必ず各種の祭器を陳列し兩旁には必ず鐘鼓を懸け又鑾駕を列置せり門には幔あり窓には簾あり神前には香火を焼き客舎には筵席を俱ひ殿中には大燈を懸け階下には兩個の大鐵鼎を備へり而して是鼎は祭及節期等の金銀錢紙等を焼くに用ゆと云ふ

## 第二章 問屋及び商店の組織

問屋及び商店には主人の外に伴當を置き以て商賣の事を任す之を掌櫃的或は買辨と曰ひ帳簿を管理する者を管帳と曰ひ天秤及び金銭の出納を司とる者を管秤と曰ひ碼頭市上旅館衙門等に入出徘徊して貨物の多寡出入を偵察し及び外來の顧客を求めて貨物を賣込む者を上街的と曰ひ店内の雜役即ち茶を汲み烟草を進むる等のことを務むる者を學徒と曰ふ又店主自ら店内の事を監督管理すると能はざるときは別に商事に明達敏捷なる人を雇ひて店内一切の局面を調理せしむ之を管事と稱す管事は店主に對し一切の責任を擔ふものにして三年を以て任期とし營業上の損益を店主に報告す其買辨以下の諸役員は各專擔任の部局に當り金銭の出納の

如き最も嚴正たり店主若くは管事は各役員を監督管理し店内全体に注意するものとす是れ支那問屋及び商店組織の大要にして員數給料の如きは業の大小に従ひ各店同しからず仲買問屋は役員大約十人乃至二十人月給少きは十元多きは四五十元に至る卸賣商店は伴當七八人乃至十四五人月給少なきは五元多きは三十元其管事の月給は概ね五六十元位なり小賣商店には管事管帳管秤四五名を置き上街的を置かす其月給は五元乃至十五元なり飲食雜用は問屋及び大小商店に論なく總て店主の負担に屬するものとす今問屋及び大小商店營業の一般を左に示さん

問屋 問屋は支那にて行と稱す廣豁なる舗面を張り資本の多き者は幾萬兩少きも二千兩餘を下らす貨物代金の授受は

總て行に於て賣買者の中間に立ち之を取扱ひ賣買共其賣價百分の三の口錢を受くるを例とす而して其上街的即ち仲買人は最も機變に長し商畧に富み敏捷活發殆ど當るへからず而して其の客商を籠絡するの術に至りては狡獪詭譎人其術中に陥らざる者稀なり今其の客商を誘拐する手段の一二を擧ぐれば則ち上街的は豫め各旅館と交通するを以て客商の來去及ひ何貨を買入れ何貨を賣出す爲めに來れるとを知るを得へし既に之を知れば豫め館主をして先入を爲さしめ次て自ら其人に接して世談情話より其人の爲めに深切なるか如くし終に客商を伴ひて市上を散歩し之を酒樓に誘ひ之を青樓に導き自其費用を支拂ふか如き其客商の歡心を買ひ之を籠絡する所以の者至らざる所なし是に於てか客商たる者

一は人情に羈され一は義理に責られ之に賣買の仲買を依頼せざるを得ざるに至る是れ上街的か慣用手段にして客商の其術中に陥りて自ら知らざる所以なりとす其他鴉片館茶館等の如き皆仲買人か客商を籠絡するの具たらざるなし而して是等酒樓紅樓等は店主より毎月幾何と約定しあるを以て上街的自ら其費用を即辨するを要せず月末季末に至り行主に於て計算支辨するなり然りと雖客商も亦老練なる者ありて容易に籠絡の計に乗らす先つ上街的の口狀を聞き次に其店內に至りて實況を見分し又同時に各店の上街的の言ふ所と各店の有様とを交互參照し損を避け益に就き徐々として手を下すを以て詭變に長する上街的と雖も容易に之を籠絡する能はず市儈の手段も亦多端なりと云ふへし

店 大商店 大商店は卸賣小賣を兼業する者にして之を店と云ふ其資本は一萬兩乃至五六萬兩を常とす大商店の上街的は問屋上街的の如く狡猾手段を用いて客商を籠絡せすと雖其の客に接するや一種の甘言を用いて能く客意に投じて以て自店の花主に引込むに至りては老練機敏なる實に驚駭に堪ゆへきものあり其店に存せる者は貨物を整頓し排列を明媚にし來客に接する鄭重圓滑にして其感觸を損せざらんことを是れ勉む若し夫れ貨物の出入を偵察し其有無多寡を調査して開闔聚散の機を決するの敏腕に至ては摛縱自在眞に人をして舌を卷かしむるものあるなり

舖 小商店 小商店は小賣を營業とする小店にして之を舖と云ふ其資本は大小一ならず數百兩なるあり數千兩なるあり其

一萬兩以上に及ぶ者は則ち稀に見る所なり小商店か貨物を仕入るゝや決して其地に於て仕入るゝとなく遠路を跋涉して廣州上海漢口天津等の大市場に出て實を避け虚を覗ひ巧みに是か買入を爲すを以て競争上大商店の爲に壓倒せらるゝの患なし又大商店の如く顧客を導くか爲に上街的を置かすと雖市場一般の景況に注意し運動の法を講ずるは則ち會て異ならざる所なり

學徒 已に支那商店組織の概畧を述べたれば終りに臨み商業見習者の事を一言し置くへし蓋し支那商人か商業に熟練し懸引に妙を極むるは吾れ人の共に認むる所なるか其の之を致すは支那人の特性と數千年の經驗とに由ると云ふと雖も亦見習方法の其宜きを得るに由らすんはあらず首節に於て述べ

たる如く支那商店には皆學徒なる者ありて伴當の使令に供  
 するとなるか此學徒は即ち商業見習の爲に商店に奉公する  
 ものにして一名徒弟とも稱し我國の小僧に彷彿たる者なり  
 凡そ商人たらんと欲する者は其貧富を論せず十四五歳の頃  
 より一の商店に奉公し商業を見習ふは支那の習慣にして店  
 主若くは管事を稱して師傅と呼ひ店主の妻を師母と呼ひ伴  
 當を先生と呼ひ店主の子を世兄世弟と呼ひ初めて商店に入  
 ときは師傅師母に三跪九叩頭の禮を行ふ商店を退くの後と  
 雖其身分の如何を論せず又師傅と抗禮するを得ず商店に  
 在るや平常日用の禮式より帳簿の記載算術習字尺牘文を學  
 ひ漸次に貨物銀塊の鑑定に及ふ其期限を三年乃至五年とし  
 其期滿つれば其業務に習熟せるや否を察し習熟するものは

之に暇を與へ其欲する所に従ひ業務を執らしむ若し依然其  
 店に従事せんと願ふ者には相當の月給を與ふ之を出仕と稱  
 す其未だ習熟せざる者は猶習熟するに至る迄店に在りて見  
 習はしむ凡そ學徒には給料を與ふるとなく師傅即ち店主よ  
 り毎月三四十錢の小遣を給するのみにして衣服等は其父母  
 より仕送るものとす又怠惰若くは不取締等の事あれば師傅  
 より嚴に教訓を加ふるものとす是れ則ち支那の商業研修法  
 なり

各商店伴當員數及ひ給料歳額表

給料表		雜貨行		海味店		廣貨店		磁器舖		銅舖	
人員	給料	人員	給料	人員	給料	人員	給料	人員	給料	人員	給料
正 管 事	一人 二〇〇兩	一人 一四〇兩	一人 一三〇兩	一人 一六〇兩	一人 一〇〇兩	一人 二二〇兩					
副 管 事	一人 一五〇兩										

守桃	打	厨	外	管	小	中	站	上	副	正
夜水	雜	房	班	行	官	班	准	街	管	管
二人	二人	二人	十四人 十五人	六人 四人	七人 六人	六人 五人	七人	六人 七人	一人	一人
一〇兩	二兩	三〇兩	三〇兩	三〇兩	三〇兩	三〇兩	一五〇兩	一四〇兩	八〇兩	一三〇兩
	一人	一人			三人	四人	八人	六人	四人	一人
	二人	二人			三人	四人	八人	六人	四人	一人
	二〇兩	三〇兩			二兩	二兩	四〇兩	三〇兩	一〇〇兩	自五〇兩 至一〇〇兩
	二人	一人			五人	五人	三人	三人	四人	一人
	二〇兩	三〇兩			四兩	三兩	四〇兩	三〇兩	二〇兩	一〇〇兩
	一人	一人			二人	一人	一人	一人	一人	一人
	二〇兩	三〇兩					三〇兩	二〇兩	四〇兩	四〇兩
	一人	一人			二人	二人	二人	二人	一人	一人
	二〇兩	三〇兩					三〇兩	二〇兩	四〇兩	四〇

表中兩行並書する者は商店に由り異同ありて一定せざるなり例へば上街的六人とあるは商店に由りて六人の上街的を置く家あり七人を置く家あるなり又一四〇兩とあるは

上街の一人に付き一百四十兩の年俸を給する家あり一百五十兩を給する家あるなり但し其の數は中等を以て之れを記す

商店帳簿雛形

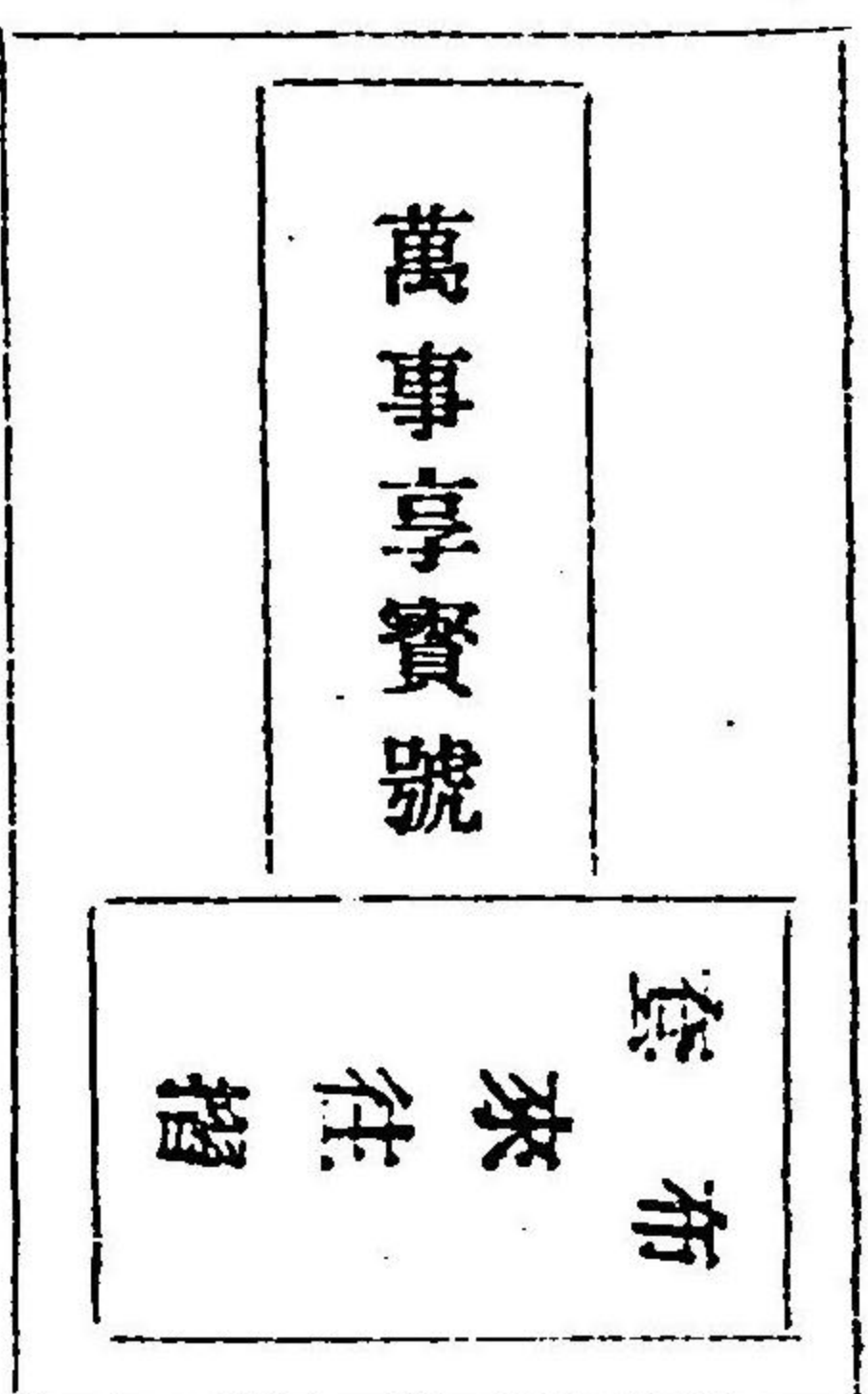
帳簿雛形

支那に貿易を試みんと欲する者は其帳簿の一般を知らざるへからざるは勿論にして又以て支那商人か財務整理の如何を窺知すへきなり

銀錢來往扣手帳

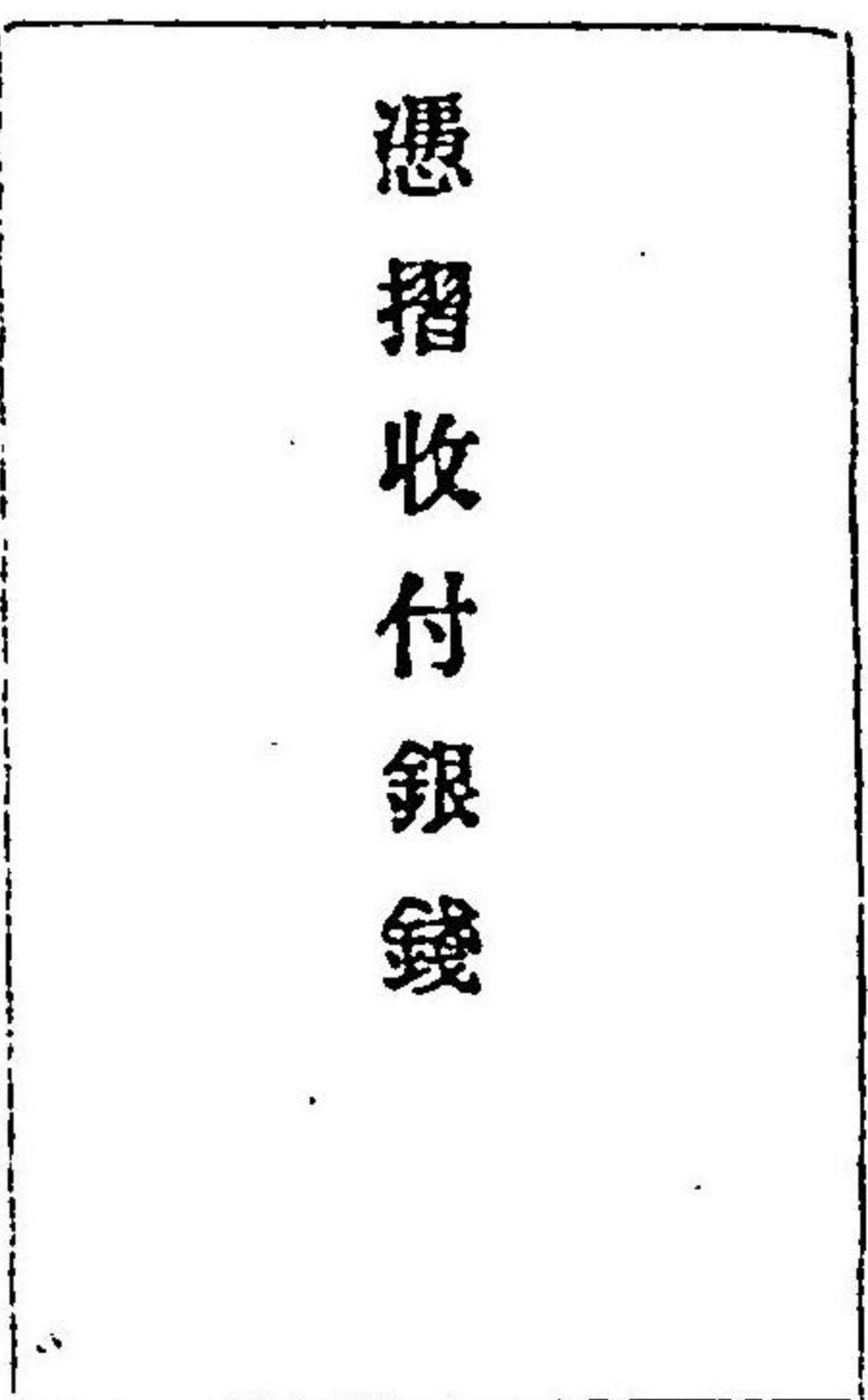
此手帳は豎日本竹尺二寸六七分横一寸二三分の泣帖製の小簿にして外包むに布套を以てす銀錢の外より入る者ど内より出づる者を扣する出納手帳とも云ふへきものにして單に銀行の用ゆる所なり

圖 甲



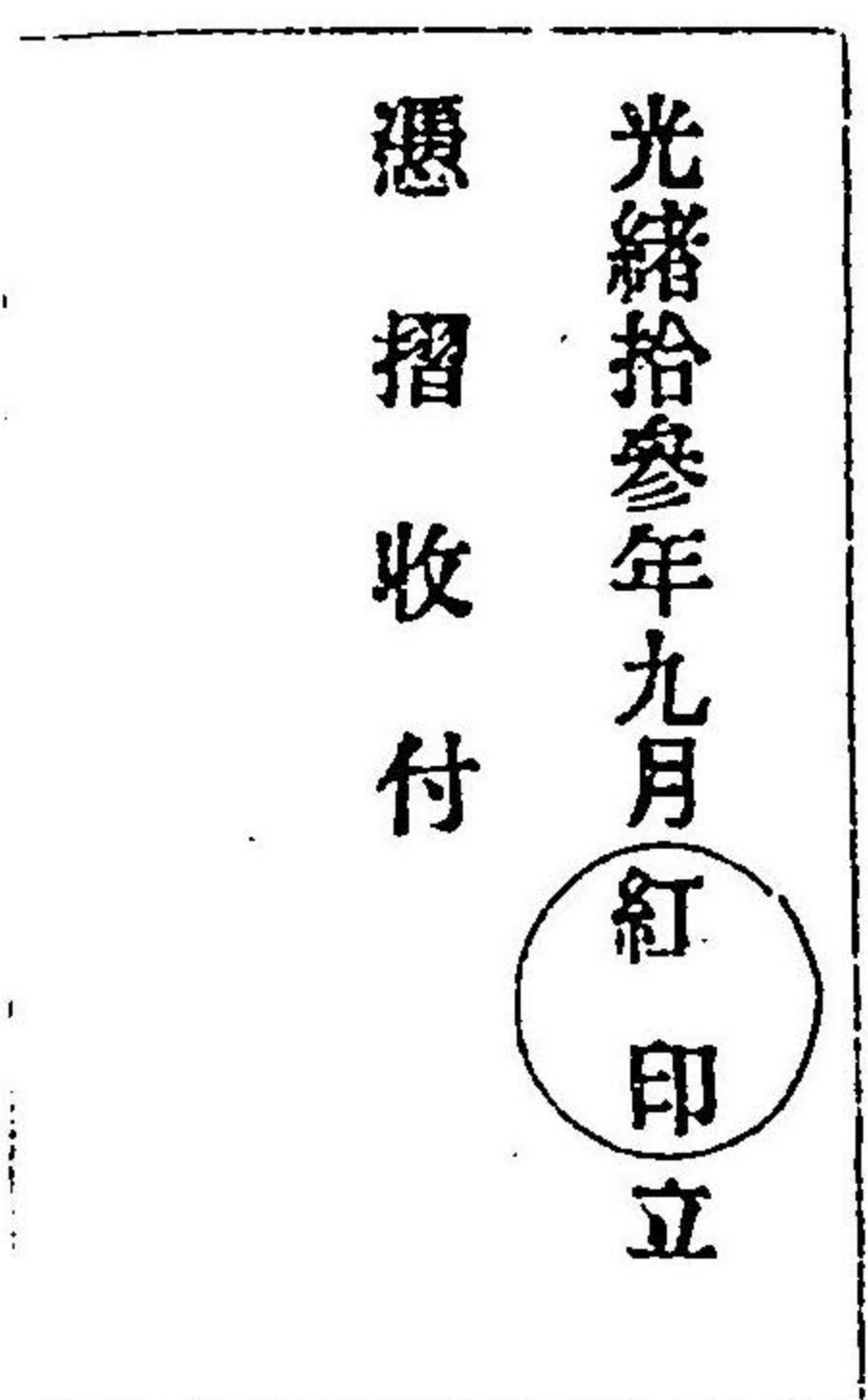
此圖は布套即ち手帳の外封の表面なり  
 萬事享寶號とは銀行の名にして此手帳の所屬を明にするものなり  
 片紙を横に張り上に云々を記せる者は手帳の形質を明にせるものなり

圖 乙



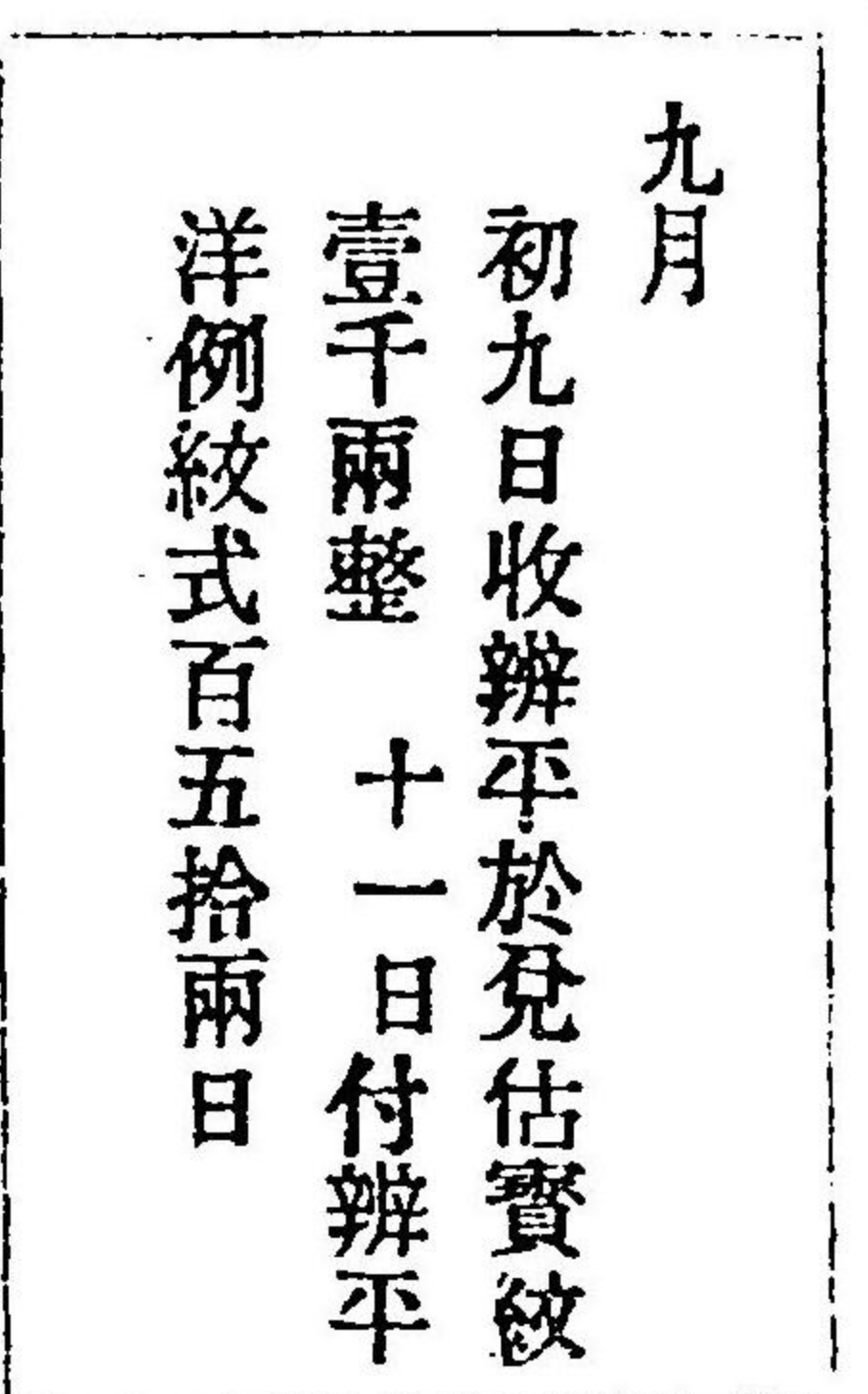
此圖は手帳の表面を寫せる者なり  
 憑摺收付銀錢とは簿内に記載する事項の性質を表明する手帳の題名なり

圖 丙



此圖は手帳の初頁にして帳簿の名稱及び記載する端給の月日を記せり凡そ總ての帳簿證初頁に記する此例に仍るものとす故に後に記する諸難形皆之を略して記せず

圖 丁



此圖は即ち簿内記事の正文なり  
 前行は銀錢の銀行に入る者を記し後行は支出せる銀錢の高を記し以て出入去留を明細ならしむるなり是より後一收納一支出ある毎に皆此例に依り紙を逐ひ行を尋ね連載するなり

### 第三章 棧房並に號客

棧房並に號客  
 客棧房とは日本にて宿屋と云ふか如し帮棧客棧の別あり客棧は普通旅人宿にして之を説くの必要なきも帮棧は各地方問屋商人即號客の定宿なれば貿易者は宜しく之を知らざる可からず蓋し何地を問はず其地商業の繁盛を來すは單に其地人民の購買の結果にあらずして重に幾多地方より各自の需用品を仕入れ又は各自地方物産を賣込まんか爲めに來集せる幾多商人との取引より來れる結果なれば其地に就きて



物品の銷路を求めんと欲せば必ず各省各路の仕入商即號客を歡待せざるへからず而して號客を得んと欲せば又之を其定宿即幫棧に求むるの外なきなり

幫棧は號客の地方に依りて各得意を異にせり例へは四川商の號客は四川省の定宿にして陝西省の商人は陝西省の定宿に宿するか如し今我海産物の大市場たる漢口に就き幫棧の事を言へば號客の此地に下宿する者擧げて數ふへからずと雖も長江以下よりするものは浙幫廣幫建幫徽州幫を多とす長江以上よりするものは西幫(陝西省)川幫(四川省)河南幫雲貴幫湖南幫等とす長江下流の號客は漢口貿易に於て甚た必要を感じずと雖とも長江上流の號客は之を熟知せざるへからず如何となれば長江上流の需要に充つへき我國産の物貨及び長江

上流産の我國に輸出すへき物貨は皆此等號客の轉運を頼まざるへからざればなり

山西陝西兩幫棧房即西幫棧房

恒發棧 天成棧 裕盛棧 篤慶棧 栢溪棧 仁和棧

萬來棧 恒益棧 卞崇棧 永合棧 隆興棧 同茂公

以上十二家は僅に西幫棧中十分の二に過ぎざれども皆其の著名なる者なり西幫商人は直實正確を以て國內に知らる故に市場に出て、西幫と云へは何れも先つ心を安する風習なり金錢取引の如きも西幫に限り一定の規則を設け必ず九八平九八兌を以てす且つ錢莊の如きも有名なるは多く西幫人の開設に係り其の取引に於ける勢力甚強し且つ西幫人の商規は殊に嚴正にして例へば一人を物貨の仕入賣込として遠

地へ派遣する時は堅く左の約を爲すと云ふ

一若し被遣者にして不正の業を働き又は逃亡するか如き

とあれば主人は被遣者の家族を無給にて役使すへし

一被遣者は旅行中は被遣者の月給を其家族に渡し事ある

に於ては主人より充分の保護を加ふへし

一被遣者の歸店せしときは先づ行李の検査を乞ひたる上

にあらされは其家に歸るを許さす

河南帮棧房

晉順廣 協盛棧 林興棧 吉順公 魏長發 五昌棧

公昌棧 李二方

湖南帮棧房

悅來棧 集盛公 吉昌棧 乾益棧 盛興棧 維新棧

義生棧 同人豐 兩儀棧 同記棧

四川帮棧房

森記棧 凱記棧 全義棧 錦峯棧 恒興昌

右三帮は西帮の如く萬事嚴確の商規なく商業上に於ける度量衡の如きも殆んど漢口と異ならず唯其物貨の種類に依りて差異あるのみ而して三帮商の風紀を概言すれば四川湖南は狡猾にして油斷ならず河南は西帮に似て穩當なるか如し

#### 第四章 訪問の規矩

儀式及應對

曾て面識なき人を訪問するには或は友人の誘導紹介するあり或は友人の添書紹介するものあり必ず先づ其人物、居住、貫籍等を査問し之れを一單内に開注して從僕の心得となすものなり而して何人は何帖を用ふへく何處は幾日に訪問する

とを豫定すへし或は先づ其知己故交を訪問するとあり官職ある者にして上司の衙門又は當路者の居住及び同僚前輩平輩、晚輩の處往來するには乗車、駕輿、騎馬を用ひ必ず禮服を着すへし若し徒歩なるときは便服を用ゆるも隨意なりとし總て先づ名刺を投す若し主人不在或は他故によりて面接するを得ざるときは其從僕に命じ名刺を以て訪問の意を通して辭去す屬員晚輩者に於けるも同様たり上司の衙門に往拜するときは轅門にて乗を止め同寅平輩の如きは何れも大堂に至り轎を下り中門よりし其外の諸家は出入に側門よりす其面接するに於ては執帖者前導して應對所に至る主人の出るを俟つて相互拜禮を行ひ主人は來客に譲りて右坐せしめ自ら左方に陪坐若し主人の職位尊大なるときは來客は必ず

左右下位の椅子に坐し主人は其近傍なる椅子に陪坐するものなり僕輩の茶を捧し來れば主人より轉遞し茶碗の蓋を取りて茶の好否を視し後客前に奉す客或は垂手挺立し或は拱手の禮をなし敬意を承け再ひ着坐す次に兩僕各々水烟草乾烟草を供進し彼此傾談互相謙詞を以て頌揚して後漸く他事に及ものなり惟大人先生の前に於ては訪ふあれば從て答ゆるのみにして平輩を拜問し任意縱談するの類にあらず應答既に盡るときは主人は茶を舉げて迎飲し來客飲茶完はれば告辭す僕輩相傳へて轎車の用意を促し客の中門より出つへき者は主人は大堂に送り客來既に定れば主人之れに對し長揖す客は拱手之れに答ふ而して前行數歩に及ぶとき主人室に入り客轎は簾を下して歸去するの例なり若し主客の談論

中介意するものあるときは其談次の盡くるを待たずして主人茶を挙げ客の去るを促すとあり客の中門より出人すへからさる者は主人は應對所外或は二堂の傍に送るのみ來客にして他友の添書ある者は直ちに面接し遇はすして返る者は必ず名刺を以て門房に留め號簿に記入す進呈物品あるときは面接の時談次中に其意を通し始めて送交するものなり在官者にして主客官職尊大なるときは送迎に必ず鼓吹爆竹を用ゆ以上は初對面の禮なるも禮服訪問するときは相識者といふも儀式に至りては皆な同一なり

## 告別

告別の爲訪問する儀式は初對面のときと大同小異なり惟執帖人述ふる所ろの口上同じからさるものあり初めて上司に訪問するには請安、稟見、稟到、平輩の類には請安、拜會と云ひ告

別のときは請安、稟辭、或は謝恩、謝委、謝差、叩辭、平輩の類には請安、辭行と云ふ遇はさる者は名刺を留むる等前項に異なるとなし

慶賀 慶賀の時に於ては平尋情誼往來するものは物品贈送するの外必ず禮服を着用して往賀す其儀節は前條に同じ若し賀過多なるときは主人に代りて應接の勞を分つ者あり官紳、士、庶に論なく門前に於て鼓吹を奏し名帖房を設く帖内には請安、道喜又は賀喜の文字を書す上司に對するときは叩喜の字に代ゆ以上は總て婚嫁、升遷、生子、科第等の時に於ては壽誕の如きは請安、拜壽、上壽と云ひ年節の時に於ては請安、拜年、又は賀節、叩節と云ふ而て禮物の類は多く前日に人を以て往送せしめ其禮物は身分相應の者とし紅色又は紅簽を用ひ喜慶吉利

の文字を書し吉服華衣を着用し早朝に往賀するを例となすも定時あるときは其時刻を按して往賀するとあり

吊喪 吊喪の禮節も大畧前項に異ならず衣服は必ず玄色にして若し官帽に翎あるものは堂外に於て之を除去し帖房に投する名帖上には吊香、上供、祭奠、吊孝の文字を書す其表中の者は喜慶の場所に赴かさるものとするも吊奠の家に至るを得但名刺は泥紙或は紅紙のものなれば從吉の二字又は制の一字期の一字を加ゆへく忌服満期の後に於て之を去る而して友人父母の喪を吊するときは祭帳の類は紅色のものをを用ゆへし吊客の送迎には鼓吹を奏すると慶賀の時に異ならず唯奏樂者の衣帽白色を用ゆるのみ吊客の情誼あるものは主人より別に白袍、白套を備用し釦紐を紅色にして其喪家の眷屬にあ

らさるとを別つのみ

回禮 回答の儀式も大差なきものにして惟名刺を投するの時に於て請安回歩、回拜と云ひ其他人を勞せしものは謝歩と云ふ其人に見接するを欲せるときは不在の時刻に乗して名刺を留存して往來の禮を廢せさるに止まれり

送行 送行には酒席を以てし或は禮物旅資を以て贈送す其儀式は前項に同じ惟名刺に請安送行と書し寓所に於て分別する者多しとし舟車にて送行者は多くは親切の友人にして禮物囑托等の件も他人に先ちて之を行ふものなり

朋友 朋友間にして間日に訪問するには或は衣冠を着け或は便服を用ゆる時と雖とも儀式は同前なるものにして唯正門より出入するとなき隨意飲茶縱談するを得或は期を約して面談

する等總て請安拜會と稱し多くは便服を着用し主人の便宜を圖るものなり然れども訪問するの前に於て主人の在不在を探知し而後往問す而て訪問者は久坐長談するを得るも眞に要事なくして訪問すると少れなり

名刺の用法

往來拜謁には前に記するか如く必ず名刺を用ゆへく如し上司に對するには必ず稟帖なるものを以てし之れを手版と云ふ其首尾皆な藍紙を接續し表面に一の稟字を記す其首頁を披けは一面は梅紅色なるものにして上一寸五分左右五分斗りを空白にし職銜及び姓名を小楷にて端書す師傅を見るときも同一なる儀式とし表面に受業某々或は門生、門人某々と記す武官なるときは標下某々又は沐恩某々等の文字を記す官職なき者は單に姓名を記するのみ其首尾に藍紙を附せさ

るものを柬帖又は名帖と稱し正面に一の正字を楷書し其首頁を披くときは右傍五分斗り上部一半を空白にして愚弟某々頓首拜と書する者を通尋の帖とす世交ある者は一の世字を書し親誼ある者は一の姻字を記し同年者は年弟、同寅者は寅弟同郷者は郷愚弟有徳の者に對するには教弟と記し紳衿者の官職あるものに謁するときは治弟官職尊大なる人に謁するには弟の字を改めて晚と書す晚輩者に對しては姓名を帖の上部に記すものなり帖の文字は手版に比すれば字形三四倍も大なるへく此外帖の寛は僅かに三分の二位に止まり梅紅色の紙を以て名帖となし姓名を其上に印す小楷を以て官職姓名を記せしものを銜片と云ひ或は名帖内に官職を記するものを銜帖と云ひ惟官職ある者にして之れを用ゆへし

以上は官紳士商常用する所ろの手版、名帖、名片の大畧なり而して翰林院内に在る者或は外國使臣用ゆる所ろの名片は紙片張大にして且つ姓名を大書す兩傍は僅かに一寸斗を餘し上下は殆んど餘地なきに至れり是れ其拜謁に需用するものとし各々自尊の意あり何れの時に起因するやを詳かにせず

#### 第五章 宴會の規矩

緒言

清國宴會の規則は頗る繁多にして之を縷晰分明ならしめんと勢の能はざる所然れども其要領を摘擧すれば宴名、地名、席名、東名の四様となす内、官、商、農、工、祀神會友等の區別に因て稍其趣を異にすと雖規矩の概畧は類推して知る可きなり

名稱 宴會の名は官、商、農、工に論なく春日に邀飲する者を春酒と曰ふ嫁娶升遷及び子を生むには則ち喜酒、喜筵と曰ひ壽誕には

壽筵と曰ひ臘月の聚會を團拜酒と云ひ又た年酒とも曰ふ春秋祭祀神に酬ひ客に謝し及び敬を集て事を議するを皆會酒と云ふ彩唱するものあり戲酒と云ふ偶聚小酌するを便飲と曰ふ更に錢を歛めて息を生し資を湊めて賑助するの類亦名けて會酒と稱す又た朋友を邀引し華を逐ひ芳を尋ぬるの宴を開くものを稱して花酒と云ふ之を宴席名稱の大概とす

宴場

宴會の場處亦た自ら種別あり官場客を宴するか如きは自ら是其衙門公廨に就て席を設く士農工商は平生各其家に於てす然れども此れ必ず春酒、喜酒、便飲の類に限り若し同郷、同業者の如き敬客の公宴には會館及び公所に於てす即ち年酒、團拜、會酒の類なり或は戲園に就き或は酒樓に上るは官商士庶の常にする所謂はゆる花酒に至ては即ち妓館に酌むものあり

り而して以上何の場處に於てする者に論なく其の妓を招て酒を侑むるときは皆稱して花酒と云ふも亦た妨けなし優伶歌を徵するときには亦皆稱して戲酒と言ふとを得工匠力夫の輩に至ては又其會館公所に會飲し其公所無き者は毎に戲園酒樓を借り或は茶館を以て席に充つるとあり此等は大概會酒と稱す

配席名

宴會の餽饌俗に呼て席と云ふ其式貴賤懸殊大概分つて三等を以てす其上等なるを燕窩席とす其席たる必ず八小碗八大碗及ひ十六碟を供し人毎に兩次點心(羹頭類)を具し瓜菓碟を供ふ或は更に燒烤盤四を加ふるあり之を燒烤席と曰ふ要するに皆燕窩を以て首碗となす時に銀耳(白木蓮)を用て首碗となし或は桂花木耳を用ゆる者あり其他全羊席魚翅席の如き皆

其の首碗に依て名を得たる者にして俱に上等の席となす小碗魚翅大碗海參を以て首碗となす者の如きは中等とす其席亦た魚翅席海參席と稱す下等席に至ては首碗或は海參を用ぬ或は洋菜を用ぬ又た三鮮を以てする者あり十大碗の者あり八碗又は七碗の者あり十二碟を加へ又は八碟を加ふ又た無碟の者あり席に依て同じからず而て必ずしも點心調羹菓碟の類を用ぬす其更に次なる者に至つて四大賓盤兩大碗の者あり或は僅に四喜盤のみを用ゆる者あり俗に四喜盤耳と曰ふ是なり近年戲酒を酌むに僅かに四小碗を用ゆ十二碟にして一次の點心を加ふる者を帽殼子と稱す其錢を醸するや抽豐(按分法)及賑捐(義捐)の法を以てす是れ固より居常客を欸するの道に非ざるなり若し夫れ知己二三輩咏賞して聚會する時



の如きは家常四小椀を以て多しとす然れども是固より宴會の列に入らざるもののみ

儀禮

宴會の禮儀は首として東帖(招待状)に在り既に上等の筵席を具

ふれば必ず全柬を具ふ(別式あり)以て前一二日に於て之を邀請

す客若し辭謝する時は則ち一二日前に於て其東帖を退く客諾して至る時は則ち席へ赴く時に於て其東帖を帶ひ至り見禮の時に於て之を主人に交與す之を繳帖と云ふ至らすして退くる時は之を壁帖と稱す席に赴くには必ず衣冠乘輿を具す主人迎へ見るの禮客を拜すると同じ但た茶を擧て客に贈らざるのみ或は主人箸を奉して客位の側に立ち客は席下に立つ主人箸を以て額に加へ後れて客席に列し再ひ杯酒を以て客に向ひ捧くると眉に齊ふし箸傍に安置し乃ち客に向て

一揖すれば客答拜す此を安坐となす一より以て六坐に至る皆な如此其席を開席と曰ふ蓋し三面は客を坐し下戯台に對するに由て名くるなり若し客八人なれば則ち四面皆坐す戯筵に非ざるなり主人安坐する時客の主人を拜するに亦前に同じ半柬、夾單、單帖(皆招待状)を以て客を招くか如きに至ても其儀皆之に異なるなり只た其席の中等に屬するのみ平常客を招く時は衣冠を具せず必ずしも安坐せず又た繳帖を須ゆるなし只た至らすんは必ず先つ帖を退く若し知單を以て客を邀ふる時は各名下に於て一の知字を注し至る能はすんは則ち謝字を注するのみ

下等の筵席には素より更に衣冠、繳帖、安坐等の繁儀を用ゆるとなきなり其坐を讓て彼此謙遜する如き亦未た其煩に堪へ

す飲間毎に多く拳を打ち令を行ひ以て主人酒を敬するの意となす或は量窄ふして飲を良くせざる者にして大酔に至る如きは合觀の道に於て相悖る所なりとして之を避く此他小東を裁して以て良朋を邀へ局條を出して以て艶友を招くに至りては又た便飯花酒の儀式と等しきのみ以上各儀の大概なり然れども宴會必ず因る所あり須く分別無かるへからず往て賀する者は必ず先つ賀し議有る者も亦先つ議す惟た酬謝の事は主人大菜を席に上すの時或は半酣の時に於て或は又た將に筵を終へんとする時に於て衣冠して席下に端立し或は跪き或は揖し上に向て之を謝す客皆本位に就て起立し手を額に拱して以て之に答ふ筵終り茶罷んて衆乃ち散し歸る會酒には則ち客皆各其意に隨ひ或は戯止

みて散す素より送迎の儀無ければなり

## 第六章 渡航者心得

旅行免狀  
船及免狀

### 旅行免狀の事

汽船に係はる航路運賃日數及其注意は宜しく之れを本編第三門第五章汽船の部に就て見るへし而して外國に渡航せんとするには其筋の許可を経て旅行券を受けざるへからず旅行券の下附を出願するには渡航の理由を認めて郡區長の奥印を取り手数料として五十錢を願書に添へ外務大臣宛名にて本籍府縣廳へ差出すへし其免許を渡すは外務省及開港場管廳とす但し郵便を以て請願するも亦妨げなきものとす長崎出港の時警官より旅行券を檢査するに付出して示すへし已に支那に到着すれば三日以内に居留届と共に該券を日本

領事館に差出すへし然るときは領事館は該券と引換に受取  
證書を交付す此受取證は紛失すへからず  
我内地に於て旅券を請取る間合なきか又は海外に於て遺失  
したるときは在外我公使又は其の領事館へ其の趣を書面に  
記し自身出願之を受くへし但手数料として金二圓を納むる  
を要す

支那居留中其内地を旅行せんとするときには領事館に受取證  
書を返還し旅行券を請受くへし此場合には領事館に出願し  
支那の道臺より護照を受け旅行券と共に携帯すへし  
旅行券期限經過したる場合に於て猶外國へ滞在を要するど  
きは領事館より下附せる受取證書を返納し旅行券の再下附  
を出願すへし

歸國の節は歸國願に受取證書を添へて旅行券の下戻を請ふ  
へし而して汽船乗込の際日本郵船會社に該券を示して乗船  
切符を購求し日本に歸着したる後其地の府縣廳又は外務省  
へ奉還すへし

渡航携帶品

渡航携帶品

携帶品は渡航者の目的により同しからず今只普通主要の携  
帶品を示すのみ

- 一 四季の洋服一揃つゝ或は日本服にて四季一揃つゝ
- 一 附屬品即ち襦袢靴下股引帽子靴等は支那にて調製す  
るを得れども價格不廉なれば本邦にて成るへく整へ  
行くを可とす

一 毛布三四枚

- 一小刀 鏡 齒磨 楊子 煙管 煙草入 煙草 半紙
- 塵紙 手帳 鉛筆 手提革囊 鰈蟆口 手拭 蝙蝠傘
- 針 絲 小剪刀 時計 磁石 寒暖計 望遠鏡 蠟
- 燭 寸燐 尺度 西洋紙 氣附 目藥 強胃劑

日本より支那各港へ郵便物差出法心得

國名及地名線 路 信書五十グラム毎に 書留手數葉 書往復 印刷物五十グラム若しくは五十グラム迄 商品見本 以上五十グラム毎に  
精國各港 上海或は香港を經 五 十 二 四 一 一 二 一

目方及大さの制限 商品見本の大きさは長二十「センチメートル」  
凡を曲尺にて 幅十「センチメートル」凡を三寸厚さ五「センチメートル」  
凡を六分六厘 又其目方は二百五十「グラム」凡を六十六厘迄に限る  
凡を一分六厘 へし其他の郵便物は(信書を除く)目方二千「グラム」凡を五百三十分迄  
 に限る商用上の書類及び印刷物は幅厚さとも四十五「センチ

メートル」(凡五寸)を超ゆへからす

郵便葉書 外國用の爲め特に葉書及往復葉書の發行あれば之を使用すへし内國用のものは切手を補貼し外國用となすを得す

書留 印刷物商品見本商用上の書類は信書と均しく上海へ書留として差出すとを得へし

到達證 郵便聯合約國に差立る書留郵便物にして受取人受取證書返送を望むときは郵便稅書留手數料の外一箇に付金五錢の増手數料を納むべきものとす

郵便にて遞送せざる物品 他の郵便物を汚穢し若しくは損害すへき性質のもの正貨并に海關稅を課すへき物品を封入の信書金銀の地金寶石珠玉及び高價物品等は郵便にて遞送

するを得ず

千四

### 第七章 借家の習慣

借家は我國と大同小異たり支那にては之を租房子と稱し其貸家の門前には召租と書せる張紙或は張札あり其新聞紙の發行地にあつては大低同紙上に廣告するものなり而して外國人は外人居留地内に住居し其家屋は大低西洋造りなり唯上海居留地は支那人に雜居を許し居るか故西洋造支那造混合參錯し其西洋造と雖とも支那人の所有に係はるもの多し凡て支那人は貸家の所有主を房東と稱し其借家の方法は我國と同じく其期限或は一月三月半年一年二、三、四、五年等均しからず唯期限長ければ借料自ら低く其之を借るに方り家主より借主の意に應じて修理改造するものにして又敷金は大

借家  
法

家及知人には無之も小屋は二ヶ月の家賃を前納せしむると多し而して其借主は其家に屬する水道料工部税を拂ふものとす其他支那人所有の家屋を借るときは外更に進店小禮と稱する兩事あり其進店とは例へば一年の家賃百圓なるときは其進店禮として十圓を借家證に添へて納むるものにして之を見一加一と云ふ但以後は之を要せざるなり其小禮とは家賃収集人に與ふるものにして大低十圓に付限三步位を家賃に添へて與ふるを常とす而して上海にて外國人には此進店小禮を取らざるもの多く又其借家に方り必ず先づ保證人を立て左の證書を納めしむる者なり

借家  
詞書

租券

立租字人或招牌今租到

某招牌寶號某先生名下、某街巷<sub>土庫樓房</sub>或計大小幾何間、門窓格扇、一應俱

余憑中議定每月殆大錢若干申文、或每年某平某色某兌銀若干兩按季先付後住、不得短少分文、上漏下濕、房東修理、改造、裝修、住戶承當、門攤、修街、不與<sub>房東</sub>相涉、恐口無憑、立此租字租捐爲據

計批

當收押租(銀△平△色○)永存不扣

憑中人、姓名押

光緒十八年正月吉日

某々<sub>或印</sub>立

押

租摺同式、惟以後每月、每季、收欸數上蓋印不同

某日收本行租銀△平○○色△兌○○兩正數上有印

同 同 同

借家  
の證書  
の直譯

借家證書の直譯

借受人(或屋號又は姓名今(屋號又は某堂或某館某先生)の持家某街巷にある土藏(舖店)樓房)大小幾何間一ヶ所を借受くるに付ては門窓戸扉等一切備附あるとは證券中に約束しあるを以て毎月九八の大錢幾何申文(或毎年何秤何銀何兌の銀若干兩)約束通り納附するの後に於て住居し一文たりとも不足するを得ざるものとし雨漏なり又は濕氣の爲めに腐損せし場處は家主より之を修繕し改造裝飾するとは借主の自辨とし

門先又は街普請のとは(家主)に關係なし口舌にては不  
慥なるにより此の借家證及び家賃簿を造り證據とな  
す

敷金

敷金 銀何秤の何銀幾千兩也永久に保存一文たりとも差引を  
なさす

保證人 姓名 印

何年何月何日

借主 某々 或屋號  
姓名 印

家賃簿 同前の法式にて惟以後(毎日)(毎季)家賃拂  
金圓の上に印を捺すのとのみ不同なり

某月(本)季(月)の家賃 銀若干申文 何銀若干兩也を願狀す(金圓の上に捺印す)

同

第八章 呂宗票

組織 清國各港現今呂宗票と稱する者盛に行はる即ち英語の「マニ  
ラロツタリ」にして我國にて云ふ「マニラ」富籤と稱する者な  
り其起因を尋ぬるに該票は全く「マニラ」政府乃ち西班牙政府  
か財政の一部を補はん爲め發行せる者にして清國沿岸に對  
しては支局を香港及上海に設け之か發賣に従事せり其清國  
に行はれて爾來廿餘年今や各港各地到る處競ふて之を購ふ  
に至れり其法毎月其紙數凡ろ三萬乃至四萬五千帳を發行し  
一張を同番號二十切となし客人の希望に依り之を切斷し或  
は其儘にて賣却せり其價は元價一張十元一切五十錢の割な  
れども受賣者より之を買ふ時は一切或は五十錢或は六七八  
十錢に至る事あり蓋し毎月其買手の多寡に依り其價格の高  
低を顯すなり毎年六月及十二月の兩月は頭彩と稱へ一番當

籤は一枚にて十萬元二彩は同じく四萬三彩は二枚にして一萬元つゝを得へく常にあつては頭彩を或は六萬元或は五萬元或は四萬五千元とし一樣ならずと雖ども之を概言するに最高得數十萬元最下得數百元時あり五十元發行總數三四萬餘張の内得點紙は僅に三四十分の一にして其金額は毎月十五六萬圓より二十五萬位の處とす而して之か爲め西班牙政府にて月々得る處の利益は凡ろ二三十萬圓に上ると云ふ

弊害 爾來該票の盛行すると共に各地之か仲買乃ち受賣者を増加せり現今上海にては儼然門戸を張り快得必得、定中、屢中、萬寶萬利等の招牌を掲げ之を專買賣するもの大小百餘家の多きに至れり而して其弊害漸く浸漬今や殆んど救ふへからざるに至るものゝ如し現に當地道台の如き之か買手を禁すと雖

ども人民は依然として之を購ひ商店は恬然として之か賣却に汲々し實際一も其令を奉ずるものなし而して百張中其籤に當るもの僅かに二三に過ぎざるを見れば其國家及個人に利害損得する所以の如き別に説をなすを要せざるへし我國の如き己に法律ありて之を嚴禁すと雖ども又た往々之を購ひ其罰科を蒙るものあるを聞く謹まざるへからざるなり茲に暫らく呂宗票の一斑を掲げ以て其利害の大要を示し併せて清人の如何に賭博心に富むやの一端を視んとすと云爾

### 第九章 護照全譯文

護照(内地旅行免狀)

大日本欽命駐劄上海管理本國通商事務署總領事某爲給發護照事照得通商條約十三款載日本國民人准聽持照前往內



地各處遊歷通商執照由領事官發給由地方官蓋印經過地方如飭交出執照應可隨時呈驗無訛放行僱船僱人裝運行李貨物不得攔阻如其無照其中或有訛誤以及有不法情事就近送交領事官懲辦沿途止可拘禁不可凌虐等因現據荒尾精即華音阿拉活些易稟稱欲由上海前赴江蘇省江寧等處遊歷請領護照前來據此本領事查該民素稱妥練合行發給護照應請

大清各處地方文武員辨驗照放行務須隨時保衛以禮相待經過關津局卡幸勿留難攔阻爲此給與護照須至護照者

右照給 荒尾 精收執

明治 年 月 日

給

光緒 年 月 日

大清欽命二品頂戴監督江南海關分巡蘇松太兵備道加印

限 繳 銷

譯 文

皇國官員を除く外諸般人民等清國の内地を遊歴する護照を請ふとは畢竟旅中不慮の禍を防禦し不慮の難を保護するに清國地方官より其護衛を給する爲めに備へし者なるに各國人共に從來等閑に心得只身許に帶る而已にして其要目に注意せざるより間には不都合の事もあれば以來左の規則を遵守す可し

一清國內地へ入り遊歴する者は先に何處に至り又何所に巡ると護照に逐一書載ある處々へは當地の道臺より其

各處の地方官に別段一々通知有る可き筈なれば遊歴者は其地方へ到着せし時其地方官にて遊歴者所持の護照を點檢し相違無き時は又其人に返し與へ而して其地方官廳の委員或は其處の地保等の者に申付け保護せしめ其より他處へ巡る時は其人員亦同道して其遊歴する向きの州縣に掛合ひ前條の如く保護する筈なり

一前條の手續なる者故其遊歴者は己れの護照に書載ある處所の地方に到らば必ず先づ所持の護照を以て自身に其地方官廳に赴き點檢を請ふ可し

一遊歴する處所に到着し其滯留する宿所より地方官廳へ路程遠きか或は一時差支ひ有て自身に護照を持參し點檢を請ふに不便なるときは其隨從せし召使の者か或は

旅宿の主人に托し地方官廳に赴き到着せしとを以て報知せしむ可し

但し若し我か宿所へ地方官の屬員來りて護照を點檢せんと云ふ時は之れを出して見せしむ可し

一前條の手續を経すして竣りに其行く向々に於て地方官へ無沙汰に打過きて萬一滯留中か若くは其他遊歴する處々に至る間經過する路程に於て不意の事に遇ひ非常の迷惑困難を受るときに及ひ一時其保護の方處分の法に不便なるとに至るも計り難ければ甚慮る可き事也因而此等の情況に於て總て遊歴者は最も自ら戒心し其地方に到る時は一々其の役所へ到着せし由を報知に及ひ其保護に預るを專要の事と心得可き者也

## 附言

遊歴者は其到りし處に於て土地の風俗工藝物産等に因り我國に有益の事或は其處の動靜豊凶等の事見聞及ひ情形は本港へ歸着せし時に書取り又は演説を以て本館へ報告有らんを望む

## 第十章 内地旅行者の注意

支那内地旅行の困難なるは此の國に遊ふ者の皆口にする所にして交通運輸の不便なる客店の不潔陋穢なる警察保護の不整頓なる驛遞事務の亂雜なる邦人の豫想たも及はざる所なり支那旅行者の諺に在家千日好出外一日難の語あり以て其の旅行容易ならざるを知るへし是を以て支那人は官用商用若くは必要已むへからざるの事故有るに非るよりは決し

て他行を爲さず四方に周遊して名勝古跡を賞覽するか如きは絶無と言ふも可なり左に支那内地の旅行に注意すべき件數則を擧ぐ是れ支那人の注意する所にして邦人の支那を旅行するもの亦た宜しく之に留心せは蓋し其の過ち無きに庶幾からんか

出發  
前準備

一 旅行者は發程前先つ其の向ふ所を問ひ沿途の年歲風土人情等を審かにし然る後に行装を戒む行季は華美なる可からず什物は散放す可らず銀は成る可く零碎のものを携へ錢は宜く多く携ふへからず人前に箱箠を開視す可らず邊僻の地を行くに刀鎗を帶ふ可らず夏日も必ず棉衣を帶ひ晴天亦た雨傘を携ふ重大の件は僕徒に委せず踪跡必ず親友に告げ交り親密にして旅行に慣るゝの人に非れば同伴すへからず

と雖も數十名一群の行旅なれば伴を結て同行するも亦た可なり此の外臨機應變筆墨の盡す處に非す要するに禍患を未然に防くの意に外ならざるなり

旅行の途意

一 途中甘言同行を求むる者に逢へば宜しく之を謝絶す可し旅宿に入りて其良からざる者を見れば速に他處に遷移すへし遺物有れば人無き所と雖繞りて之を避け決して拾ふ莫れ船より所用ありて上陸する時も旅資は必ず携へ行くへし旅宿に投するは早きを善しとし宿を發するは遅きを可とす驟雨に逢ふも急に岩墻の下に避くる勿れ強風の兆候を見れば直に港灣に泊す可し山を越るには轎馬に乗せず水を渡るに必ず後先を計る纜を急水に牽く時は岸に近きの艙門に立つ勿れ舟狂風に遭はば須らく其帆檣を去る可し患難は之を救

人夫車馬の籠を雇ふ法

ひ連累は之を防ぐ乗馬の際肚帯は宜く緊にすへし鎧を踐むは淺きを要す船中にありて酒を飲む可らず車上に烟を吹く勿れ後面聲あれば宜しく仔細に回顧す可し面前物來れば容從之を左に避く可し  
三 人夫、車、馬、轎船を雇ふの法事異なりと雖ども法は則ち同一にして各其問屋に就き單子と稱する切符を受取るを則とす單上人夫幾名夫頭何人驟馬幾匹車幾輛船幾隻運賃幾何某處より某處に到り某地にて運賃の何程を給し某地に着して賃金の全數を與ふる等の事を明細に記載す即ち問屋と荷主との間に締結せる契約證據なり一路無事にして目的の地に到着すれば其の單子を夫頭に渡し問屋に還付せしむ若し途中不法の事有れば其の單子を以て適宜地方官署に訟へ其處

分を仰くを得可し而して行程の遲速は天候の如何に因りて豫定し難しとす

得の投宿  
得心

四 客居に投宿するは成るべく人家多き鎮市を撰ひ必ず日暮前に於ては旅客の出入多き客店に投す可し已に宿に入れば先づ其主人姓氏を問ひ小憩の後便所の所在を覓め寢に就くの時遍く室内を照して携帶の品を收拾し散亂せざらしむ小時と雖とも室を出つれば必ず其門を銷す可し日中夜間を論せず飲酒量を過す可らず隣室客來れば但た恭謙を以てこれに對し多く之と傾談す可らず晩食終れば直に宿料を算す可し夜半門を叩くの聲急なれば貿然驟かに開く可らず細かに其來意を聞き疑ふ可き無ければ傍よりは是を開く可し成る可く他人と同宿を避け又た頻りに他室に至る可らず隣室騒

旅中  
官吏  
を訪  
問す  
る法

擾の狀有れば但た竊に之を聞き往て見る可らず隣居火を失せは先づ自ら守り往て救ふを要せず舟中にありては殊に風火を防ぐ可し

五 要務有りて官吏を訪問せんとする時は其衣冠を正ふし輿に乗して行き彼の門房に至れば名刺護照を投し相見んとを請ふへし然らされは豫め書翰を與へ會晤の期を約すへし既に相見は各其の國禮を行ひ坐に就て談す言盡きて懇懃別を叙す出入必ず中門に由らす輿に乗すれば必ず鞠躬揖するか如くして去る會晤の際其民の冤苦を談せず争訟の案情を語らす只た民情土俗を問ふへし已むとを得ざるにあらざれば護送(途中の護兵にして官より之を附す所要の事あるに應じ其携ふる處の護照を示して之を求むる者)を索めず只た

封船を托すへし而して其手數料は自ら之を給す若し船より上陸して地方官を訪問せば其地を出發するの時は必ず辭行すへし饋送あれば必ず其使者に賞するを例とす

六 地方の名士或は畫家商賈等を訪問するにも宜しく先つ折東して預め面會の期日を約し其の返信を以て準と爲し期の如くにして往く便服にして輿に乗せさるも可なり門に至れば投するに名刺を以てし主客揖讓坐定りて後ち談す茶菓隨意に之を用ひ語談亦た意に任せて發す可し詩詞は須らく自ら製して和を索め書畫は則ち紙を備へて要請す酒を飲んては大醉せず食間急語せず國政兵制を問はず天主福音を談せず儒者は經史を論じ畫家には山水を話し商賈には買遷を講し皆心を傾け耳を悅はしむるの言を以て自ら彼に求めは

旅中の地名士及畫家商賈を訪問する法

應酬中に於て能く其の大緻を領するを得ん況んや交久ふして情愈々密なるに至りては其語談の際に得る所亦應に少なからざるへきなり

支那内地旅行携帶品

- 一 毛布三四枚
- 一 錫或は銅の「キューズ」茶碗 茶壺 飯碗 箸 大形「ナイフ」鐵葉面洗盆 糞物入
- 一 麻布呂敷 枕 堅固なる革箱 麻布錢入袋 手拭 油紙 蓆 針 絲 剪刀 剃刀 楊子 齒磨 石鹼 扇子 煙管 煙草入 蠟燭 寸燐 雨靴 支那雨傘
- 一 地圖 短銃 支那銀秤 墨 筆 手帳 紙 鉛筆 曆 時計 寒暖計 尺度

一「ギニー子」目藥 氣付 強胃劑 下劑 血止藥 毒消

藥 蟲除藥

一茶 鹽 砂糖 煙草

圖引機械 測量機械 繪具 望遠鏡 小説稗史等の雜

品は旅行者の隨意なり

宿屋の事

宿屋 内地の支那旅店は公館客棧客寓客店飯家店子等六七種あり  
公館客棧は官吏又は號客の定宿にして最上等なりとす客店  
客寓は中等店にして飯家店子是我邦の木賃宿と其趣を同じ  
くす

公館客棧等の上等宿は寢臺は勿論蚊張蒲團食卓杌椅子鏡手  
燭等をも備置き下僕一人を添へて萬事の使令に供し又朝夕

三四回の行水及盥嗽を供し且つ一人にて一室を專にすると  
を得へし然れども北方各省に至りては湯殿を設くる者少な  
く又た稍々繁盛の地に非されは此種の設けなきものとす  
客寓客店等中等宿は一人にて一室を專にするとを得す他の  
旅人と一室内に喫飯飲食せざるへからざるのみならず蒲團  
便所を備ふる者なし蒲團類は江南地方の宿室に於ては下等  
宿室にても多少の損料を取り貸付する備あれども江北地方  
に在りては十中の九までは其備なし故に旅行者は自ら之を  
携帯せざるへからず下等宿室に至りては更に甚し寢臺すら  
完備せず或は土間に臥さしむるとあり或は簀子の上に臥さ  
しむるとあり其尤も甚しきは豕小屋に臥さしむるとあり

僱人法一斑

## 買辦(番頭)

我國言ふ所の番頭を名つけて買辦と云ふ買辦の稱は泰西交易の始まりしより起りし新稱にして北各省にては當家又は掌握と云ひ南各省にては管事又は總管と云ひ上海にては攬首廣東にては市頭と云ふ

番頭の雇法は舊來自家奉行人才力あるものを撰て之に充つるものあり親戚故舊を以て任ずるものあり又或は諸友知己に托して其人を求むるものあり各相同しからずと雖ども其尤も親愛するものを以て之に任ずるは我國と相異なるとなし然れども其尤も信愛するものにあらざるよりは必ず其身元金を要するを例とす只た其番頭の權力を有すると尤も驚くべきものにして店内一般の賣買上は勿論奉行人の進退

黜陟一切の事は凡て番頭の意に一任し主人と雖ども容易に嘴を容る能はざるの例也

俸給の如きは素より不相同と雖ども概畧南各省に於ける番頭の俸給は食料の外十兩若しくは八兩内外とす是れ誠に僅少なるか如しと雖ども是れ單に帳簿上記載する外面の俸給にして尙ほ別に十兩なれば外に十兩八兩なれば尙ほ八兩を與ふるの例なり名つけて之を一底一面と云ふ此例は主人か番頭を放信するの意と番頭以下數多の使丁小僧をして己か給金の些少なるを壓はさらしめんか爲也と云ふ而して尙ほ別に給金に應じ利益配當あり稱譽慰勞金等ある事我國諸會社と相似たるものあり而して又番頭以下使丁小僧に至る迄自力を以てする以上は店内に限り自在に店内の物品にあら



さるも賣買するを允すか故に俸給は些少なるも尙ほ利益を得る事不少と云ふ北各省は大に之と異なり衣服雜費の如きは店主より之を給すと雖とも給金は凡て年末を以て之を支給し番頭の如きも年百金に上るものあらすと云ふ清國各港に於ける各洋館か番頭を雇ふの狀況は日本各港に於ける西洋人か洋館番頭を雇ふものと大に其趣を異にせり番頭たるへきもの其實力を有せざるへからざるは勿論正確なる保證人と其商館か賣買上運轉資金に應じ巨萬の身元金を整ふるにあらされは容易に其番頭たると不能然れとも一旦身番頭たるを得は館内一切の賣買取引は勿論以下雇人の黜陟進退館内一切大小の事は凡て番頭の意に一任せるものにして主人は單に自國に於ける取引を管理し年末に至り番

頭より報出する利益を受收するに過ぎず而して館内一切大小の費用は買賣高金の五分を以て之に充つと云ふ番頭以下管賬的(張簿掛)經手(買賣掛)站拒的(店掛)管銀錢的(出納掛)管倉的(倉庫掛)管秤管平(天秤掛)等の名目あり管賬經手の如きは番頭と殆んど相比すへきの給料應酬を受くと云ふ其以下の如きは南各省にあつては概畧毎月三四兩より十一二兩北省にあつては毎年十五圓より五六十圓各洋館にあつては毎月六七圓より一二十圓内外とす

#### 管員用人一班

官員には必ず家人家丁即ち我國云ふ所の執事書生從者と稱するものあり俗呼て管家或は爺們と云ふ紳士紳商等皆な之れあり乃ち西洋人の家丁「ボーイ」と相似たるものなり清人間

にては一ヶ月大概二三元より五六元を給し別に節期年末等に當り慰勞として一二三四元を與ふ西洋人の「ボーイ」を雇ふもの毎月六七元より二十元迄の間とす然れども此等は凡て洋語字に概通するものにあらされは不能

#### 苦力(小使)

北人の呼て苦力と稱するものあり南人は又之を呼て打雜襄帮と云ふ我國云ふ所の小使の如きものなり専ら奔走操作に従事す灑掃遞信送貨携燈挑水一切の小事に任す月給は各處不同と雖ども毎月一二三元以内とす若し食料を除くときは五六元を給せざるへからず年節必ず多少の慰勞金を與ふるを例とす之に従事するもの上海廣東天津漢口地方の人に尤も多し

#### 厨子料理人

厨子とは即ち「コック」料理番のことを云ふ専ら一家の炊事に従事す俗呼て火房厨房燒火的燒飯的とも云ふ又厨子の勞を助役するものあり名つけて下吐と云ふ月給は食料の外に三元以内を與ふ小兒なれば其半を與ふ厨子は月給食料の外五六元より十元位迄の處なり年節毎に又必ず多少の慰勞金を與ふ清國一般の風習として米炭蔬菜の買入を厨子に放任する時は多少之か口錢を削略せらるゝを免かれず故に心あるものは毎朝別に店内より一人を派し蔬菜を求め來りて之を厨子に附し米炭油酒の如きものは凡て問屋より届けしむるなり清國に於て調味に尤ども長する地方は天津廣東蘇州三地の人を推すと云ふ

毛桶(糞掃去人)

毛桶とは糞掃除人を云ふ各地方婦女多く之に従事す毎日一度一桶の掃除賃一二文の割尤も多きは一ヶ月二百文に至る毎年節には別に慰勞として一二百文を與ふるの例也又酒食を給す若し男兒にして之を業とする時は一擔に付四十文を與ふ毎年節の慰勞金は前と同じ

挑夫(人足)

挑夫とは人足を云ふ食料外日雇賃概ね二百文内外苦力車夫轎夫(籠かき)皆な同じ只九夜巡り門番は食料外一二三圓以内とす

裁縫

裁縫師一日の雇賃は食料外日に二百文別に酒手四十文を與

ふ然れども少なきは十二文位にして別に茶菓を供して已むものあり

花匠(植木師也)

花匠とは植木師也各洋館には毎月四六八元内外を給し庭内を修飾せしむ食料を給せず

右の外木匠(大工)石匠、油漆塗師、裱糊(表具師)銅工錫工の如きは上海地方にて日給二百四十文を與ひ食料を給せず又土方の如きは右の三分一を給せり

官稱及各省地稱

清國にては素より一定の官稱ありと雖ども平常談話の際或は新聞紙上に記するに別稱を用ゆる事多し又地名省名の如きも一地名を擧げて一省を代表し或は舊名を呼て現稱を用

ひさる事多きか故に参考の爲之を記する事左の如し

千三十四

官稱

各省地稱

縣	州	府	知	知	通	同	知	守	關	巡	按	布	巡	總
丞	判	同	縣	州	判	知	府	道	察	政	察	政	撫	督
分	州	經	縣	州	三	二	府	道	泉	藩	藩	撫	撫	制
縣	佐	廳	宰	牧	府	府	尊	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺
貳			令	刺	戎	司	太	觀	廉	方	中			
尹			尹	史	府	馬	尊	察	訪	伯	亟			
			明											
			府											
廣	廣	湖	湖	貴	雲	四	新	甘	陝	山	山	直		
東	西	南	北	州	南	川	疆	肅	西	西	東	隸		
廣	桂	長	武	貴	滇	西	伊	甘	西	太	濟	北	燕	
州	林	沙	昌	陽	地	川	犁	涼	京	原	南	京	京	
		湘	江	黔	滇	蜀	回	玉	長	晉	齊	燕	燕	
			夏	滇	滇	蜀	疆	門	安	晉	魯	京	京	
			楚	滇	滇	蜀	疆	門	長	晉	魯	京	京	
			楚	苗	滇	蜀	疆	門	安	晉	魯	京	京	
			楚	苗	滇	蜀	疆	門	安	晉	魯	京	京	
			楚	苗	滇	蜀	疆	門	安	晉	魯	京	京	
			楚	苗	滇	蜀	疆	門	安	晉	魯	京	京	
			楚	苗	滇	蜀	疆	門	安	晉	魯	京	京	
			楚	苗	滇	蜀	疆	門	安	晉	魯	京	京	
			楚	苗	滇	蜀	疆	門	安	晉	魯	京	京	
			楚	苗	滇	蜀	疆	門	安	晉	魯	京	京	
			楚	苗	滇	蜀	疆	門	安	晉	魯	京	京	

典	巡	提	總	副	參	遊	都	守	千	把	外	將	學
史	檢	督	兵	將	將	擊	司	備	摠	摠	委	軍	政
右	分	提	鎮	協	參	遊	都	守	摠	專	分	軍	學
堂	司	臺	臺	臺	府	府	關	府	我	城	汎	憲	臺
部	巡	軍	總	協						汎			院
廳	政	門	鎮	鎮									
	司												
	廉												
江	福	浙	臺	江	南	安	河	關	上	漢	揚	重	
西	建	池	灣	蘇	京	慶	南	東	海	口	州	慶	
昌	南	上	臺	姑	江	安	京	盛	上	漢	維	巴	
豫	臺	杭	北	蘇	南	徽	東	京	洋	鎮	揚	渝	
章	閩	餘	臺	州	南	淮	遼	京	中	漢		川	
		杭	北	州	南	淮	遼	京	中	漢		東	













上海	二十里廿四丁	二八二四	四一三〇	五二三三	六四〇五	七三三一	九二〇六	九九二九	一〇七三四	一一四三五
崑山鎮	八里	二一〇六	三二〇九	四三一七	五三〇七	七一一八	七九〇五	八七一〇	九九一一	
蘇州府	十三里六丁	二四〇九	三五二七	四五〇七	六三一八	七二〇五	七九一〇	八六一一		
無錫縣	十一里三丁	二二二一	三三一一	四三一七	五三〇七	六三一八	七二〇五	七九一〇	八六一一	
常州府	十一里三丁	二四〇九	三五二七	四五〇七	六三一八	七二〇五	七九一〇	八六一一		
丹陽縣	十一里八丁	二二二一	三三一一	四三一七	五三〇七	六三一八	七二〇五	七九一〇	八六一一	
鎮江府	九里廿六丁	二〇三四	三一〇一	四一〇一	五〇一二	六〇三二	七〇四二	八〇五二	九〇六二	
江寧府	十八里十二丁	二八〇一	三九〇九	五〇一二	六〇三二	七〇四二	八〇五二	九〇六二		
江甯縣	七里廿三丁	二五三四	三五二四	四六三三	五七四二	六八五一	七九二〇	九〇二九		
太平府	八里五丁	一五〇六	二六〇六	三七一六	四八二六	五九三六	七〇四六	八一五六		
蕪湖縣	七里一丁	一四〇六	二五〇六	三六一六	四七二六	五八三六	六九四六	八〇五六		

千四十六

第二十六 從上海至鎮江府

上海	四里六丁	五〇六	三六二八	四九二八	六一〇〇	七〇二六				
吳淞鎮	一里	三四二	四三三	五二四	六一〇	七〇二六				
寶山縣	三十三里三十丁	三三三三	四四四三	五五五三	六六六三	七七七三				
江陰縣	十一里	二二二二	三三三二	四四四二	五五五二	六六六二				
常州府	十一里	二二二二	三三三二	四四四二	五五五二	六六六二				
丹陽縣	十一里八丁	二二〇八	三三〇八	四四〇八	五五〇八	六六〇八				
鎮江府	九里廿六丁	二〇三四	三一〇一	四一〇一	五〇一二	六〇三二				

第二十七 從通州經安慶至漢口

通州	十五里十七丁	二五一五	四四二二	五九三三	六八三四	八一〇七	一〇三三五	一一五〇四		
靖江縣	九里三十丁	二八三一	三五三一	四四二二	五三三三	六二四四	七一五六	八〇六六	八九七八	九九九〇
泰興縣	十八里三十丁	二八三一	三五三一	四四二二	五三三三	六二四四	七一五六	八〇六六	八九七八	九九九〇
楊州府	七里	二五三三	三五三三	四四二二	五三三三	六二四四	七一五六	八〇六六	八九七八	九九九〇
儀徵縣	七里	二五三三	三五三三	四四二二	五三三三	六二四四	七一五六	八〇六六	八九七八	九九九〇
六合縣	八里二十丁	二五三三	三五三三	四四二二	五三三三	六二四四	七一五六	八〇六六	八九七八	九九九〇
江浦縣	九里	二五三三	三五三三	四四二二	五三三三	六二四四	七一五六	八〇六六	八九七八	九九九〇
和州	十二里九丁	二二〇九	三三〇九	四四〇九	五五〇九	六六〇九	七七〇九	八八〇九	九九〇九	
無爲州	二十二里廿八丁	二二〇九	三三〇九	四四〇九	五五〇九	六六〇九	七七〇九	八八〇九	九九〇九	
安慶府	三十一里三丁	二二〇九	三三〇九	四四〇九	五五〇九	六六〇九	七七〇九	八八〇九	九九〇九	
漢口	二十里二十丁	二二〇九	三三〇九	四四〇九	五五〇九	六六〇九	七七〇九	八八〇九	九九〇九	

第二十八 從北京至浙江杭州府  
北京蘇州間は第廿  
四表に詳かなり

北京	三百三十六里三十丁	三三三〇四	三四八〇四	三五三〇四	三六八〇四	三八三〇四	三九八〇四	四一三〇四	四二八〇四	四四三〇四
蘇州府	六里九丁	二〇九	三一〇九	四一〇九	五一〇九	六一〇九	七一〇九	八二〇九	九二〇九	一〇二〇九
吳江縣	十五里	二〇〇九	三一〇九	四一〇九	五一〇九	六一〇九	七一〇九	八二〇九	九二〇九	一〇二〇九
嘉興府	五里	二〇〇九	三一〇九	四一〇九	五一〇九	六一〇九	七一〇九	八二〇九	九二〇九	一〇二〇九
桐鄉縣	六里九丁	二〇九	三一〇九	四一〇九	五一〇九	六一〇九	七一〇九	八二〇九	九二〇九	一〇二〇九
石門縣	六里九丁	二〇九	三一〇九	四一〇九	五一〇九	六一〇九	七一〇九	八二〇九	九二〇九	一〇二〇九
杭州府	十里十三丁	一六一二	二六二二	三六二二	四六二二	五六二二	六六二二	七六二二	八六二二	九六二二

第二十九 從鎮海至溫州府

千四十七

鎮海縣	八里	一七、四	三九、〇	五四、〇	六四、四	七三、〇	九四、四	一〇七、六
寧波府	九里十四丁	三一、〇	四六、〇	五六、四	六四、〇	八六、四	九四、四	一〇七、六
奉化縣	二十一里二十丁	三、〇	三六、三	四七、〇	五二、三	五九、〇	六六、四	七三、〇
新昌縣	十五里	二、〇	二五、三	三五、〇	四〇、三	四七、〇	五二、三	五九、〇
天臺縣	十五里	一、〇	一五、三	二〇、〇	二五、三	三〇、〇	三五、〇	四〇、三
臺州府	十里二十丁	一、〇	一五、三	二〇、〇	二五、三	三〇、〇	三五、〇	四〇、三
黃巖縣	七里十六丁	〇、五	一〇、〇	一五、三	二〇、〇	二五、三	三〇、〇	三五、〇
樂清縣	二十二里十六丁	〇、〇	五、〇	一〇、〇	一五、三	二〇、〇	二五、三	三〇、〇
溫州府	十二里十八丁	〇、〇	五、〇	一〇、〇	一五、三	二〇、〇	二五、三	三〇、〇

第三十 從北京至福建省城福州府 北京杭州間は第二十八表に詳かなり

北京	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
杭州府	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
富陽縣	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
桐廬縣	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
嚴州府	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
蘭溪縣	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
龍游縣	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
衢州府	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
江山縣	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
浦城縣	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
建陽縣	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
建甯縣	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
延平府	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
閩清縣	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
福州府	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇

第三十一 從福州府至九江府

福州府	十三里	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
閩清縣	廿三里十八丁	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
延平府	十五里十四丁	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
順昌縣	十三里	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
邵武府	九里十八丁	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
光澤縣	十里	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
建昌縣	廿三里二十丁	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
撫州府	十六里廿三丁	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
南昌府	二十四里五丁	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
建昌縣	十二里九丁	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
德安縣	七里九丁	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
南康府	八里九丁	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
九江府	十二里九丁	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇

第三十二 從北京至安徽省城安慶府 北京臨淮は第廿三表に詳かなり

北京	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
臨淮縣	十三里	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
定遠縣	十五里	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
張橋驛	七里廿五丁	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
護城縣	六里十三丁	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
店埠驛	六里十三丁	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
廬州府	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
三溝驛	十里	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
梅心驛	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
呂亭驛	七里十八丁	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
練潭驛	十里	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
安慶府	七里十八丁	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇

第三十三 從北京至 江西 南昌府 二表に詳かなり

Table with columns for locations (e.g., 北京, 南昌府, 德安縣, 九江府) and numerical values representing distances or counts.

第三十四 從北京至 廣東 廣州府 三表に詳かなり

Table with columns for locations (e.g., 北京, 廣州府, 佛山縣, 三水縣) and numerical values.

第三十五 從北京至 湖北 武昌府 二表に詳かなり

Table with columns for locations (e.g., 北京, 武昌府, 漢陽府, 黃陂縣) and numerical values.

第三十六 從北京至 湖南 長沙府 五表に詳かなり

第三十七 從北京至廣西桂林府 北京長沙府間は卅六表に詳かなり

北京	三百四十四	武昌府	七里十八丁	東湖縣	八里十八丁	山坡縣	七里十八丁	咸寧縣	六里十八丁	官同驛	四里十八丁	蒲折縣	四里十八丁	港口驛	五里十八丁	長安驛	五里十八丁	雲溪驛	五里十八丁	岳州府	三里十八丁	大荆驛	三里十八丁	歸義驛	七里十八丁	相陰縣	七里十八丁	長沙府	十七里十八丁
	三五六三		一六、四		一六、四		一六、四		一六、四		一六、四		一六、四		一六、四		一六、四		一六、四		一六、四		一六、四		一六、四		一六、四		一六、四
北京	四四九三	長沙府	四里十八丁	湘潭縣	四里十八丁	黃茅驛	四里十八丁	衡山縣	四里十八丁	衡州府	四里十八丁	排山驛	四里十八丁	祁陽縣	四里十八丁	永州府	四里十八丁	全州	四里十八丁	興安縣	四里十八丁	靈川縣	四里十八丁	桂林府	四里十八丁				
	四五六二		一五、五		一五、五		一五、五		一五、五		一五、五		一五、五		一五、五		一五、五		一五、五		一五、五		一五、五		一五、五		一五、五		一五、五
北京	四九七三	長沙府	四里十八丁	湘潭縣	四里十八丁	黃茅驛	四里十八丁	衡山縣	四里十八丁	衡州府	四里十八丁	排山驛	四里十八丁	祁陽縣	四里十八丁	永州府	四里十八丁	全州	四里十八丁	興安縣	四里十八丁	靈川縣	四里十八丁	桂林府	四里十八丁				
	四九七三		一五、五		一五、五		一五、五		一五、五		一五、五		一五、五		一五、五		一五、五		一五、五		一五、五		一五、五		一五、五		一五、五		一五、五

第三十八 從北京至貴州貴陽府 北京新鄭間は第卅五表に詳かなり

北京	九百九十三	新鄭縣	十一里十八丁	禹州	十一里十八丁	襄城縣	十一里十八丁	葉縣	十一里十八丁	保安驛	十一里十八丁	裕州	十一里十八丁	博望驛	十一里十八丁	南陽府	十一里十八丁	林水驛	十一里十八丁	新野驛	十一里十八丁	呂堰驛	十一里十八丁	襄陽府	十一里十八丁	宜城縣	十一里十八丁		
	一〇七〇		一〇、七		一〇、七		一〇、七		一〇、七		一〇、七		一〇、七		一〇、七		一〇、七		一〇、七		一〇、七		一〇、七		一〇、七		一〇、七		一〇、七
北京	一〇七〇	新鄭縣	十一里十八丁	禹州	十一里十八丁	襄城縣	十一里十八丁	葉縣	十一里十八丁	保安驛	十一里十八丁	裕州	十一里十八丁	博望驛	十一里十八丁	南陽府	十一里十八丁	林水驛	十一里十八丁	新野驛	十一里十八丁	呂堰驛	十一里十八丁	襄陽府	十一里十八丁	宜城縣	十一里十八丁		
	一〇七〇		一〇、七		一〇、七		一〇、七		一〇、七		一〇、七		一〇、七		一〇、七		一〇、七		一〇、七		一〇、七		一〇、七		一〇、七		一〇、七		一〇、七

承前

北京	四四三三	常德府	八里十八丁	桃源縣	八里十八丁	新店驛	八里十八丁	界亭驛	八里十八丁	馬底驛	八里十八丁	貴陽府	八里十八丁	龍里縣	八里十八丁	平越州	八里十八丁
	四四三三		八、三		八、三		八、三		八、三		八、三		八、三		八、三		八、三
北京	四四三三	常德府	八里十八丁	桃源縣	八里十八丁	新店驛	八里十八丁	界亭驛	八里十八丁	馬底驛	八里十八丁	貴陽府	八里十八丁	龍里縣	八里十八丁	平越州	八里十八丁
	四四三三		八、三		八、三		八、三		八、三		八、三		八、三		八、三		八、三

Table 39: From Beijing to Yunnan. Columns include destination (e.g., 貴陽府, 清鎮縣, 平安縣, 安順府, 鎮寧州, 永寧州, 安南縣, 江西驛, 新興驛, 軟橋驛), distance (e.g., 五里, 八里, 十里, 十五里), and station code. Total distance is 652.100.

第三十九 從北京至雲南省城雲安府 北京貴陽間は卅八表に詳かなり

千五十四

Table 40: From Beijing to Shaanxi. Columns include destination (e.g., 榆次縣, 鳴謙驛, 徐溝縣, 祁縣, 平遙縣, 介休縣, 靈石縣, 仁義驛, 鶴州, 趙城縣, 洪洞縣, 平陽縣, 蒙城驛), distance (e.g., 五里, 八里, 十里, 十五里), and station code. Total distance is 626.100.

第四十 從北京至陝西省城西安府 北京榆次間は第卅一表に詳かなり

Table 35: From Beijing to Shaanxi. Columns include destination (e.g., 榆次縣, 候馬驛, 聞喜縣, 沁之驛, 樊橋驛, 蒲州府, 潼關縣, 華陰縣, 華州, 渭南縣, 臨潼縣, 西安府), distance (e.g., 五里, 八里, 十里, 十五里), and station code. Total distance is 615.100.

千五十五

第四十一 從北京至 四川成都府 北京臨潼間は第四十表に詳かなり

北京	三百九十九里九寸	臨潼縣	三〇〇一里九寸	咸陽縣	三〇〇一里九寸	興平縣	三〇〇一里九寸	武功縣	三〇〇一里九寸	扶風縣	三〇〇一里九寸	岐山縣	三〇〇一里九寸	鳳翔府	三〇〇一里九寸	寶雞縣	三〇〇一里九寸	東河驛	三〇〇一里九寸	草涼驛	三〇〇一里九寸
----	----------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------

北京	三百六十九里九寸	草涼驛	八里三寸	鳳縣	八里三寸	二岔驛	八里三寸	松林驛	九里八寸	留壩縣	六里九寸	武魏驛	六里九寸	馬道驛	七里八寸	清橋驛	五里	黃沙驛	十二里八寸	沔縣	五里
----	----------	-----	------	----	------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	----	-----	-------	----	----

承前

北京	四百七十里二寸	沔縣	五里	劍門驛	七里八寸	昭化縣	五里	廣元縣	五里	望雲驛	五里	神宣司驛	七里八寸	黃灘驛	六里九寸	栢林驛	十一里九寸	大安平驛	十一里九寸	泗縣	四里九寸
----	---------	----	----	-----	------	-----	----	-----	----	-----	----	------	------	-----	------	-----	-------	------	-------	----	------

北京	五百七十里三寸	劍州	五里	柳池驛	五里	武連驛	五里	梓潼縣	十里	鬼城驛	七里八寸	羅江縣	七里八寸	德陽縣	七里八寸	新都縣	十一里九寸	成都府	六里九寸
----	---------	----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	------	-----	------	-----	------	-----	-------	-----	------

第四十二 從北京至 甘肅蘭州府 北京咸陽は第四十

千五十八

北	京	咸陽縣	乾州	永壽縣	邠州	長武縣	涇州	白水驛	平涼府	瓦亭驛	隆德縣
	三九十五里	三三〇里	三二七里	三〇五里	二八三里	二五〇里	二〇〇里	一七九里	一七九里	一七九里	一七九里
	三三〇里	三二七里	三〇五里	二八三里	二五〇里	二〇〇里	一七九里	一七九里	一七九里	一七九里	一七九里
	三〇八〇六	三〇五	三〇五	二八三	二五〇	二〇〇	一七九	一七九	一七九	一七九	一七九
	三九一五	三二七	三〇五	二八三	二五〇	二〇〇	一七九	一七九	一七九	一七九	一七九
	四六三三	四〇九	三〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
	四七〇九	四〇九	三〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
	四三〇六	四〇九	三〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
	四九一五	五二七	四二八	三〇九	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
	四六三三	六一〇九	五〇〇〇	三六二七	二七二八	二〇〇〇	一三二七	七二六	七二六	七二六	七二六
	四六〇二九	七五〇五	六三三三	五二二二	四一四四	三〇六六	二〇〇〇	一三二七	七二六	七二六	七二六
蘭州府	十三里	十三里	十三里	十三里	十三里	十三里	十三里	十三里	十三里	十三里	十三里

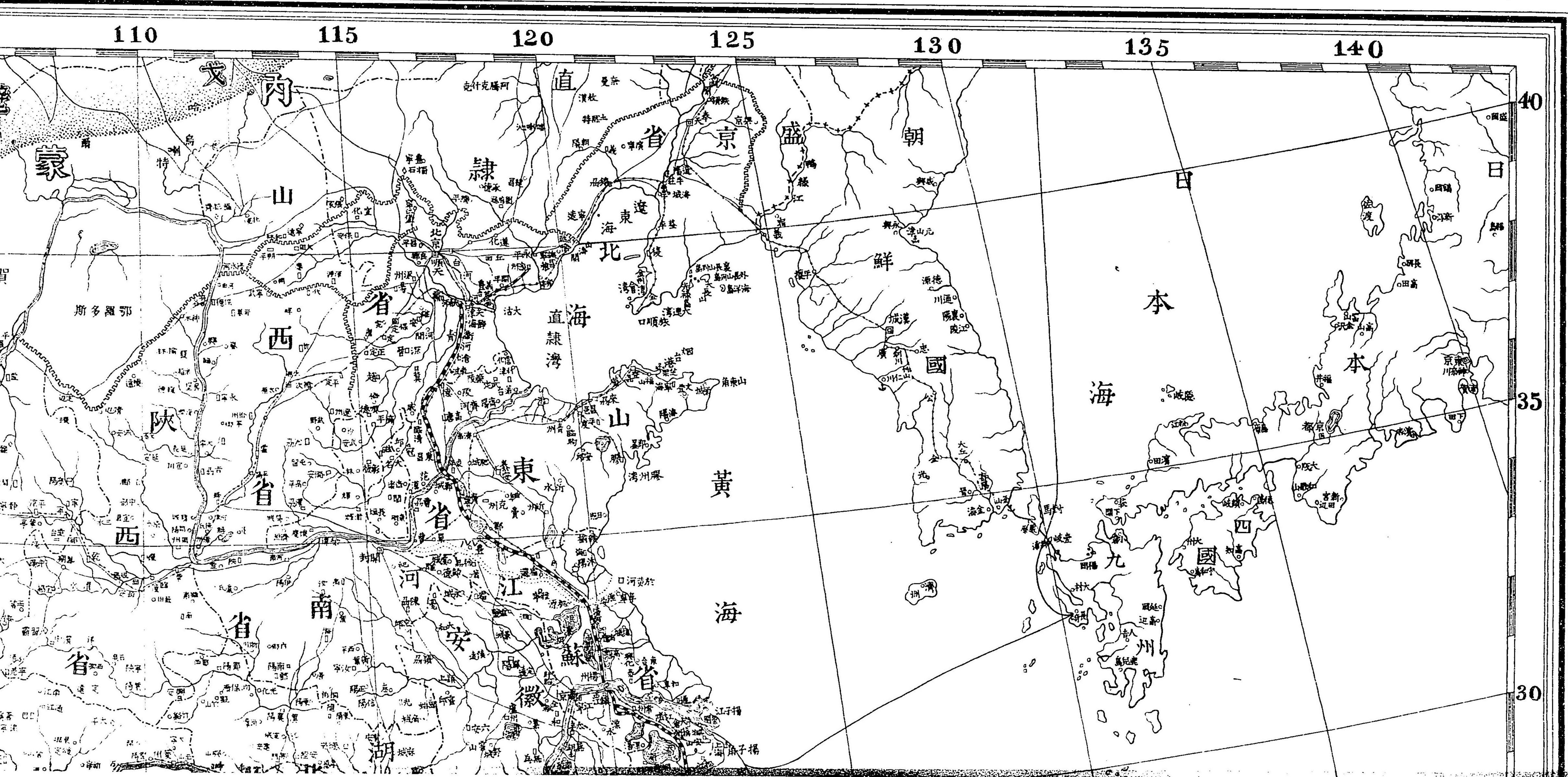
北	京	隆德縣	靜寧州	青家驛	會將縣	西鞏驛	安定縣	秤鈞驛	清水驛	蘭州府
	三九十五里	三三〇里	三二七里	三〇五里	二八三里	二五〇里	二〇〇里	一七九里	一七九里	一七九里
	三三〇里	三二七里	三〇五里	二八三里	二五〇里	二〇〇里	一七九里	一七九里	一七九里	一七九里
	三〇八〇六	三〇五	三〇五	二八三	二五〇	二〇〇	一七九	一七九	一七九	一七九
	三九一五	三二七	三〇五	二八三	二五〇	二〇〇	一七九	一七九	一七九	一七九
	四六三三	四〇九	三〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
	四七〇九	四〇九	三〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
	四三〇六	四〇九	三〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
	四九一五	五二七	四二八	三〇九	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
	四六三三	六一〇九	五〇〇〇	三六二七	二七二八	二〇〇〇	一三二七	七二六	七二六	七二六
	四六〇二九	七五〇五	六三三三	五二二二	四一四四	三〇六六	二〇〇〇	一三二七	七二六	七二六
蘭州府	十三里	十三里	十三里	十三里	十三里	十三里	十三里	十三里	十三里	十三里

備考 本表中大字を用ゆるものは専ら内地旅行者の記行中より拾集せしものにして其細字に係るものは彼國在來の示我周行或は方輿記要等の諸書を斟酌して之を記す其里數は我邦里にして即ち清里八里を以て我一里に折算せしものなり

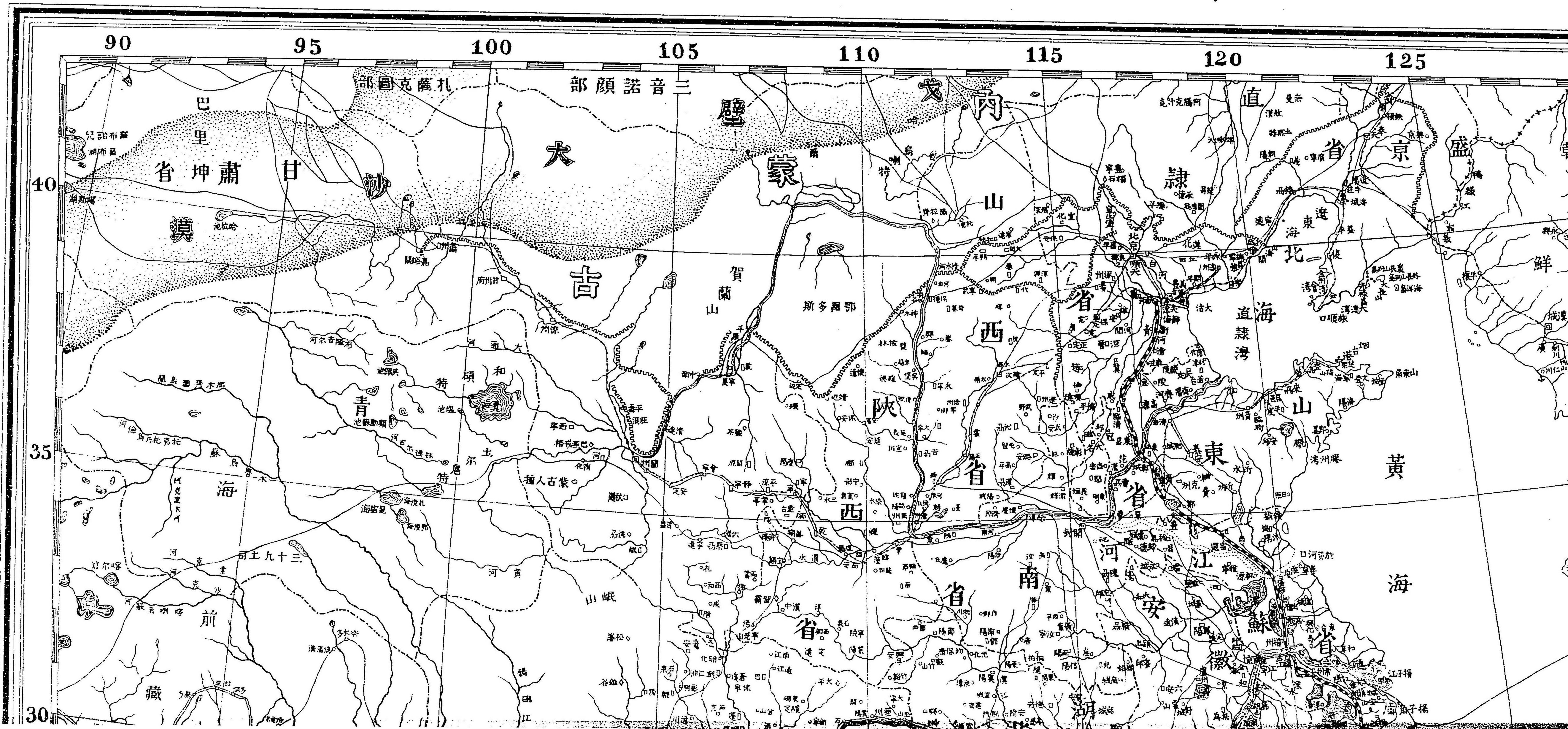


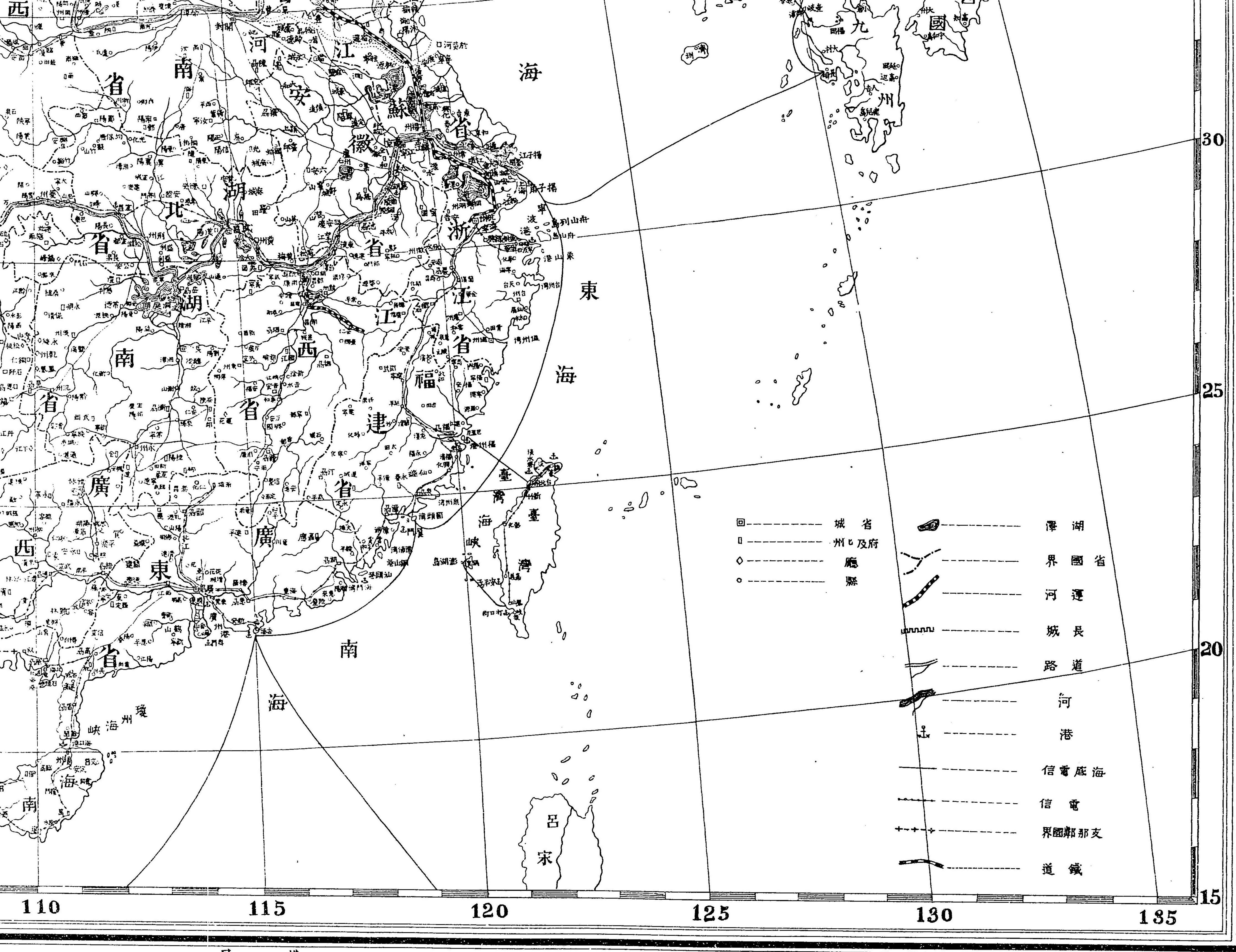


# 清國畧圖



# 清國畧圖





- |   |       |       |     |           |
|---|-------|-------|-----|-----------|
| 回 | ----- | 城 省   | ——— | 湖 澤       |
| □ | ----- | 州 及 府 | ——— | 界 國 省     |
| ◇ | ----- | 廳 應   | ——— | 河 運       |
| ○ | ----- | 縣 縣   | ——— | 城 長 道     |
|   |       |       | ——— | 路 道       |
|   |       |       | ——— | 河         |
|   |       |       | ——— | 港         |
|   |       |       | ——— | 信 電 底 海   |
|   |       |       | ——— | 信 電       |
|   |       |       | ——— | 界 國 鄰 那 支 |
|   |       |       | ——— | 道 鐵       |

尺 梯  
一 之 分 万 五 十 二 百 九

10 5 0 5 10 15 20 25 30